［日本語翻訳版］

LET'S DO IT WORLD

ANNUAL REPORT 2022

- 年次報告 -

Let's do it!

目次

- Let's Do It World代表からのメッセージ 2
- 担当理事からのメッセージ 3
- Let's Do It Worldアンバサダー 8
- ヴァリュー、ミッション、ビジョン 11
- 沿革 13
- インパクト・モデル 15
- ネットワークとメンバーシップ 17
- 受賞歴 20
- WORLD CLEANUP DAY 2022 21
- 感銘を受けた活動報告 29
- グローバルプロジェクトとキャンペーン 39
- ネットワークからのプロジェクト 43
- アドボカシー活動 48
- パートナーシップ 52
- 重要業績評価指数 57

World Cleanup Day, コロンビア

Let's Do It World 代表からのメッセージ

人生の全ては、私たちの決断にあります。
私たち人間は、その決断によって
社会を創っているのです。
生活環境を整えると同時に、
価値観や社会規範を作り上げています。
私たちが下すすべての決断には結果があり、
現在の世界の現実を作り出しているのです。

Heidi Solba
ヘイディ・ソルバ
代表兼グローバルネットワーク長

環境活動家になることは、ひとつの決断です。その決断は、健全な環境と豊かな生物多様性の保全に貢献し、世界の幸福に大きく寄与するものです。環境意識の高い人々が、自分のいる快適空間を超えて、直面する困難に対して前向きの姿勢でインパクトある解決法を見出そうとする姿もまた、ひとつの決断なのです。2022年は、多くの国々にとって、そして環境にとって、ひいては世界全体にとって最も大きな挑戦の年として歴史に刻まれることでしょう。戦争、気候変動、経済不況など、大きな試練に直面したとき、私たちの決断と団結の精神による行動は、その力を発揮し、支えとなるのです。

世界164カ国が参画しているLet's Do It Worldのネットワークは、ごみのない世界を実現するための大きな力と責任感を私たちに与えてくれています。私たちのメインイベントであるWORLD CLEANUP DAYは、単に環境のための最大規模のワンデーアクションというだけではなく、希望、未来、そして人類のためのチームワークの象徴となりつつあります。Let's Do It Worldネットワークのリーダーとそのチームは、環境活動に取り組むだけでなく、大きな課題に直面しながらも変革を起こす価値ある存在として社会に模範を示しています。このような取り組みに踏み出すことは、リーダーたちの人生を変えるきっかけとなっています。

今、地球のために働く環境団体の努力を持続させるためには、世界中の賛同者の総力を拡大し、あらゆる手段を尽くす必要があります。今だからこそ、社会の全ての分野で正しい決断をすることが重要です。例えば、必要があれば普段の快適空間を飛び出して活動することを決断したり、前向きな広い心を持って、タッグを組み協力し合うなどです。今、私たちは地球環境保全のために、より多くの時間、より多くの努力、そして私たち自身を捧げなければならないことを理解する必要があります。世界は変わりつつあり、私たち人間も変わらなければならないのです。

より協力し合えるよう、新しいこの年がより多くの人々の知恵をもたらしてくれますように。そしてその後に続く行動が、新しく健全な社会規範を生み出し、社会をより良いものに変えていってくれることを願っています。新しいイノベーション、新しい科学、新しいモデル、そして新しい私たちが創られますように。

私たちは成長し続けなければなりません。そして、パートナーと行政の力をお借りして、「やってみよう（let's do it）」という雰囲気をあらゆる場所に広げ、相乗効果のパターンを高めていかなければなりません。

積極的なコラボレーションによってのみ、私たちは人と地球のための使命を果たすことができるのです。Let's Do It, World!

担当理事からのメッセージ

Pal Martensson
パル・マルテンソン
オセアニア地域担当ディレクター

真珠のベルトのように島々が連なるオセアニアは、WORLD CLEANUP DAYパズルの中で最も広大な地区です。巨大なオーストラリア、秘境ニュージーランド、小さなツバル、そのすべてが私たちの世界的なネットワークの重要な部分なのです。

私たちは、いくつかの国と連絡を取り合い、新しい関係を築き、すべての人を歓迎しています。オーストラリアは新しいパートナーで、その参加を特にうれしく思っています。「No More Butts（ノーモア吸殻）」は、タバコの吸殻に特化したNGOで、素晴らしい活動をしています。この組織の一員の力で年間を通して多くのクリーンアップ活動が行われました。あなた方がいなければ、これほど力を発揮できなかったでしょう。

サモアでは、海洋ごみとプラスチック汚染の解決策や介入策を具体化するためにクリーンアップ活動を行い、基本データを収集しました。非常に重要なブランド監査を通じて、集計されたプラスチックの77%以上が使い捨てプラスチックに分類されることがわかりました。このデータから、WCDサモアチームは、ごみ管理システムと海の健康を改善するために、海洋ごみに対処する提言を行いました。

キリバスは、太平洋の中央部350万㎢の範囲に点在する33の島々から構成されています。現在では、クリーンアッププログラム、ごみ管理システム、リサイクルポイントが各地に増えています。地元の戦略として、毎年「片付け上手な村」コンテスト開催などを通して、村人へよりクリーンな感覚を持つような刺激を与えています。特に、ごみの分別やリサイクルに関する意識を高めるために、より体系的で計画的、長期的な公共キャンペーンが必要です。オセアニアは物流が容易ではありませんが、アクティビティ、リレーションシップ、マテリアルを網羅したプロジェクトが進行中です。アクティビティには回収、ドロップオフ、リユース、製品の引き取りなどが含まれ、リレーションシップは、契約、顧客、車、道具、設備などを指し、マテリアルは仕分け、保管、加工、販売です。**特にオセアニア地域において、アウェイはないのです。**

Bill Willoughby
ビル・ウィロビー
北米地域担当ディレクター

COVID-19は、環境保護活動に従事する人々に大きな影を落とし、ここ数年の課題でした。COVID-19以降、私たちはクリーンアップ活動展開に意欲を持って挑戦してきました。これまで活動に参加していなかった自治体や企業、機関、団体などの参加をさらに促すために、人々に情報を提供する新しい戦略や技術を開発しました。WORLD CLEANUP DAYの重要な点は、国を超えてポイ捨てされたごみの問題に取り組むことができるだけでなく、ごみ管理やプラスチック汚染に関する重要な政策議論を喚起することができる点なのです。

私たちの信念は、「人は正しいことをしたい、必要なのはちょっとした励ましや動機付けだけ」という考えです。
もしLet's Do It World運動が、さらに何百万人もの人々を元気づけ、地域社会のクリーンアップ活動に参加させることができたらどうなるか、ぜひ考えてみてください。

Leo Lin
レオ・リン
アジア地域担当ディレクター

2022年は、WORLD CLEANUP DAY (WCD) に貢献するコミュニティにとって厳しい年でしたが、アジアにおける私たちの強靭な回復力を浮き彫りにする年でもありました。2022年、インドネシアチームは180万人のクリーンアップボランティア数を維持し、日本チームは40%の成長率を遂げ、台湾チームは若いWCDボランティアのモチベーションを高めるために環境教育事業を開拓しました。これらの目を見張るような成果は、アジアのWCDファミリーの熱意と、本部や他のWCD地域からのサポートによるものです。

今年のハイライトは何だったでしょうか。まず、リーダーの課題とニーズを理解したことです。ディレクターに就任してからは、アジアコーディネーターのアグスティーナ・イスカンダルさんと協力して、アジアの各国リーダーに連絡を取りました。全員の話に耳を傾け、彼らの悩み事やニーズを理解しました。

さらに、「ReLeaf」と題した一連のスピーチを試験的に行い、アジア各国の潜在的な資金調達のきっかけを作りました。私は自分のネットワークを活用して17人の起業家や専門家を招き、アジアのリーダーたちに持続可能性のトピックを共有してもらいました。さらに、資金調達のためのディスカッションを促進しました。例えば、あるサステナブルストローの会社は、インドネシアのリーダーと会い、協力の可能性を探りました。

最後に、アジア・リーダーズ・アカデミーを主催し、アジアのリーダーたちとの関係を維持しました。アグスティーナと私は台湾のチームと密接に協力し、7月にバーチャルなアジアン・リーダー・アカデミーを主催しました。例えば、環境問題への意識をテーマにしたラップを作曲するなど素晴らしい才能を持った10代のボランティアが参加しました。2023年には、実際に台湾でアジア・リーダーズ・アカデミーを開催します。対面とバーチャル双方の方式によるこのイベントは、台湾で影響力のあるNGO、ハートバレーESG教育園がファシリテーターを務める予定です。

2023年のアジア・リーダーズ・アカデミーの最新情報に注目していてください。

Nima Zare
ニマ・ザレ
西アジア地域担当ディレクター

Let's Do It World (LDIW) の素晴らしい仲間と一緒に働くことは、私の人生でとても誇りに思える部分です。

刺激的かつ意欲を高める雰囲気をもつ、グローバルな友人たちから多くの貴重な教訓を得ることができるフレンドリーな環境だからです。

最も重要な教訓のひとつは、一般の人々の力を過小評価してはいけないということです。私たちは集まった人々と共通の目標に向かって進めば、どんな奇跡が起こるかを示すだけでいいのです。一人一人は小さなことしかできないかもしれませんが、チームであれば、真の変化をもたらす顕著な力を持つのです。この普遍的な相乗効果こそ、私たちがLDIWネットワークで築こうと努力しているものです。

私はLDIWの活動は、社会に大きな影響を与え、環境問題に対する意識を高め、長期的に人々の行動をポジティブに変えることができると信じています。WORLD CLEANUP DAYのたびに、社会のさまざまな分野からクリーンアップイベントに参加する人が増え、以前にも増してこのような活動に貢献しようとする姿勢が見られるようになりました。これは大きな成果です。

私たちは、技術の進歩が環境問題を撲滅または終焉させられる大きな可能性をもたらしてくれている時代を目の当たりにしています。しかし、この戦いを成功させるためには、私たちが一緒に、全員で行わなくてはなりません！

自分たちのためだけでなく、次世代のため、そして将来この美しい地球で生きていくすべての生き物のためにできることは沢山あります。**だから、私が世界中のすべての人々に伝えたいメッセージは、「私たちと一緒にやりましょう！」ということです。**

Alejandra Rivera Santos
アレハンドラ・リベラ・サントス
ラテンアメリカ地域担当ディレクター

ラテンアメリカ・カリブ海地域のLet's Do Itは、直接活動に誘われたことから始まりました。彼らは、自分たちの周りにあるごみ問題を目の当たりにし、すぐに行動を起こしました。この地域は社会的、政治的、経済的に困難な状況にありますが、チームはそれぞれのリーダーの姿勢のおかげで、解決策を練り、近隣と共有することができました。

ごみ問題が、私たちの住む社会の親睦、安全、健康、経済的発展にいかに影響を及ぼしているかを、ラテンアメリカ・カリブ海諸国が近隣に拡散していることを嬉しく思います。特に、Let's Do It ネットワークの一員として10周年を迎えたチームにお祝いを申し上げます。

また、ラテンアメリカ・カリブ海地域のコミュニティを再強化し、学び、構築するこの取組みを継続させるエネルギー、熱意、決意を共有するリーダーたちに感謝します。なぜなら、Let's Do It Worldは、そのリーダー達が心の内に秘めているモーターによって存在しているからです。さらにその心は全地球とそこに棲む生き物につながっているのです。

2022年は、COVID-19のパンデミックから2年が経過し、その損失を取り戻す策を模索する年でもありました。サバイバルモードで活動してきたチームもあれば、パンデミック前の活動に戻り始めたチーム、あるいは改善し始めたチームもあると思います。

この地域のチームにとって、クリーンアップ活動が政府、企業、学界と対話するきっかけになっていることは明らかです。ごみの管理を改善することにより、現実を変え、人権を改善し、より質の高い生活の機会を生み出すことができるのではないかという議論が始まっています。

まだ長い道のりであることを理解しています。しかし同時に、各国、各地域、そして世界各地ですでに行われていることも認識しています。リーダーの皆さん、この旅路を歩み、多くのことを分かち合ってくださっていることにお礼申し上げます。
あなた方ひとりひとりが放つ光が、皆さんの心の中に新たな輝きを放ちますように。どうもありがとうございます。

Christine Sayo
クリスティン・サヨ
アフリカ地域担当ディレクター

サンコファ：この1年を振り返り、アフリカでのLet's Do It の未来を計画する。

Let's Do It アフリカチームにとって、今年はすごい1年でした！アフリカでは、Let's Do It運動が、クリーンなアフリカを目指して団結し行動するよう、大陸中の何百万人もの人々の肩を叩き続けました。多くの国が、成長を続けるLet's Do It アフリカ ファミリーに登録しました。これらはすべて、アフリカ大陸のリーダーたちの努力と情熱があったからこそ実現できたことです。

1月にステファンから職務を引き継いだとき、私はこの1年がどうなるのか見当もつきませんでした。ゆっくりと、しかし確実に、物事は形になっていきました。Let's Do It WorldがLet's Do It ケニアと共同で企画した、ケニア政府関係者のためのエストニアでの初の海外研修がありました。Let's Do It ナミビアとナミビア政府は、持続可能な環境教育プロジェクトを成功させ、学校やコミュニティでの体験学習を促進させるために、このパイロットプロジェクトから多くの教訓を学び、他の国への拡大につなげていこうとしています。アフリ-プラスチックチャレンジ」に参加したLet's Do It ガーナは、サブサハラ・アフリカ全域のプラスチック使用量削減の解決策が評価され、最終選考に残りました。

「サンコファ（Sankofa）」とは、ガーナのトゥイ族に伝わる有名なことわざで、「先のことを考えるには、過去を振り返り、教訓を得ることを恐れてはならない」というものです。2022年の成果から学んだ教訓を、2023年に必ず生かしていきます。
皆さん、これからも一緒によろしくお願いします。

Holger Holland
ホルガー・ホランド
ヨーロッパ地域担当ディレクター

ウクライナで侵略戦争が起きていることは本当に心配です。同時に、私たちは気候や環境の危機と闘わなければなりません。しかし、このような危機的状況の中でも、Let's Do Itの活動として、私たちが一致団結している姿は感動的なことであり、活動を続けていくことの重要性を感じます。そして、最も重要なことは、直面している課題に取り組むために私たち全員がさらに協力し続けることです。これには、私たちの環境と健康に深刻な脅威を与えているプラスチックごみとの戦いだけでなく、現在私たちが直面している紛争状況を確実に消滅させるために活動している平和団体との一致団結した協力も含まれます。

地球にとって良い方向への変革をもたらすために、全ての人がそれぞれの役割を果たすことが大切です。気候危機とプラスチックごみ問題という課題に取り組むために、私たち全員が協力し合うことも重要です。WORLD CLEANUP DAY、DIGITAL CLEANUP DAY、そしてWaste Primerのような学校でのプロジェクトは、よりクリーンで健康的で、プラスチックごみのない環境を保護するための架け橋となる重要なプロジェクトなのです。

Let's Do It 運動が注目され、必要な支援を受けるためには、欧州議会議長のロベルタ・メッツォラ氏やEU理事会議長のウルズラ・フォン・デア・ライエン氏などの政治家の支援が不可欠です。6月15日にベルリンのヨーロピアンハウスで行われた「ヨーロッパ WCDキックオフキャンペーン」や、9月5日にブリュッセルで行われたメッツォラEU理事会議長へのWCD旗の引渡しなどのイベントは、市民社会と政治の間のネットワークと協力を促進・拡大する重要なキーイベントでした。このような協力は、気候危機やプラスチックごみ問題などの課題に対して、効果的な解決策を共に見出していくために、非常に重要なことなのです。

私は、市民社会、芸術、政治家、企業がなんとか協力し、現代の困難な環境問題の解決策を見出すことができると信じています。**私たちは共に、世界を清潔で健康的、そしてごみのない場所に変える力を持っているのです。Let's do it, together!**

Anneli Ohvril
アンネリ・オフヴリル
エグゼクティブ・ディレクター

2022年は、いろいろな意味で恐ろしい年でした。世界中で、前例のない洪水、深刻な干ばつ、熱波、強力な吹雪が発生しました。もちろん、多くの国で戦争や紛争が起きたことは言うまでもありません。これらの出来事は、もはや変革をもたらす時間がないことを示すものです。今後数年間は、私たちにとって、そして世界にとって、それが明らかとなる年となるでしょう。

LDIW本部にとって、2022年は多くの国がそうであったように、困難な年でした。2月に始まったウクライナの戦争では、本部チームはすぐに計画を変更し、人道支援を組織するためにウクライナのチームと可能な限り協力することになりました。グルジアチームとの共同環境プログラムや、ナミビアチームとの持続可能な環境教育プログラムにも年間を通じて取り組みました。また、ケニアとブラジルの公共部門代表団を受け入れ、国連ハビタットやエストニア環境省・外務省と協力して、WORLD CLEANUP DAYを正式な国連デーにするよう働きかけました。また、例年以上にハイレベルな会議を訪問し、WORLD CLEANUP DAYが変化を起こすための確かなツールであることを広く伝えました。ドイツと共同で、企業の資金調達政策に力を入れ、リーダーがパートナーを評価し、グリーンウォッシュを避けることができるようにしました。ローカルの主催者にクリーンアップに便利なツールを提供するために、世界中のWORLD CLEANUP DAYの登録システムを改善し、タリンにWCDコール＆メディアセンターを設けました。でも多くの計画は実現できずにいます。このことは、ネットワークのために、そしてゴミのない世界の実現のために貢献する流れの中で活動していることを教えてくれています。

私たちは皆、何がしかの動機があってこの運動に参加しています。異なる背景を持ちながらも、同じ目標にむかって、一緒に、私たち自身が変えていくのです。

World Cleanup Day, タンザニア

Let's Do It World アンバサダー

Elina Nechayeva
エリナ・ネチャエワ
WCDアンバサダー

エストニア出身のソプラノ歌手、**エリナ・ネチャエワ**は、オペラ界の新星として、世界中のコンサートや劇場のステージで活躍しています。エリナは、重力の影響を受けない自由な歌声を持ち、そのカリスマ性は、クラシックの愛好家だけでなくポップミュージックのファンも魅了しています。エリナはエストニア代表としてユーロビジョンで「ラ・フォルツァ」を披露しました。2022年に、地球の未来に対する痛切な思いを表現した新曲「Planet B」をリリース。この星を壊してしまったら、空の彼方にもうひとつの故郷、第2の星はないのだと、彼女は音楽を通して語ります。地球は1つしかないのです！私たちの美しい緑の地球を、そしてお互いを大切にしましょう。私たちは1つです！エリナはこの曲の収入の半分をWORLD CLEANUP DAYの成功のために寄付しています。

Christine Figgener
クリスティン・フィグナー
WCDアンバサダー

WCDアンバサダーの**クリスティン・フィグナー**博士は海洋生物学者であり、フットプリント財団の科学・教育部門ディレクターです。

「ウミガメの生物学者として、私は15年以上にわたってプラスチック汚染が海洋生物に与える痛みや苦しみを目の当たりにしてきました。すでに絶滅の危機に瀕しているウミガメは、プラスチックを摂取し、プラスチックのためにヒレ足や体の一部を失い、その結果、ゆっくりと痛みを伴う死を遂げることがよくあります。ウミガメが直面する脅威はこれだけではありません。消費中心の経済から生じる、私たち人間の便利さを優先したライフスタイル、そして個々の人々の行動から生じている脅威なのです。プラスチック汚染の危機は、世界的な問題です。手に負えないと思える問題です。一人では解決できない、全体で取り組むべき問題なのです。もちろん、WORLD CLEANUP DAYのアンバサダーに任命され、人々を動員し、自分たちの役割を果たすよう促すという世界的な取り組みの顔になることは、大変な名誉です。WORLD CLEANUP DAYに参加し、すでに起こってしまっている被害を修復し、これからもプラスチックのないライフスタイルと意識を持った消費ロールモデルになれることは、大変光栄なことです。」

Faatiha Aayat
ファーティハ・アーヤト
WCDユースアンバサダー

ファーティハ・アーヤトはニューヨーク在住の11歳の小学6年生。WCDユースアンバサダーであると同時に、子どもの権利活動家であり、地球温暖化、気候変動、炭素排出、化石燃料などに反対する声を定期的に上げる環境運動家です。また、4冊の本を出版しているほか、ハーバード大学生涯教育学部で「Becoming a Leader」専門能力開発プログラムを受講しています。小学校の卒業時には、「学業成績優秀者への大統領賞ー金賞」を受賞しています。

ファーティハはCHIL&Dという組織を運営し、気候、健康、情報、学習、開発問題に取り組んでいます。国連環境計画主催の「マイ・ゴール –より良い未来のために」のチャンピオンになりました。火星探査車パーサヴィアランスや小型のロボットヘリコプターインジェニュイティのプロトタイプ（原型）はNASAのジェット推進研究所での展示にノミネートされました。また、アドベナ・世界アートコンペティションの「脅威にさらされている海」部門でアメージングアーティスト賞を受賞しています。

Kristjan Järvi
クリスチャン・ヤルヴィ
WCDアンバサダー

WCDアンバサダーの**クリスチャン・ヤルヴィ**は、エストニア出身の著名な作曲家、指揮者であり、世界各地で様々な音楽アンサンブルの指導・監督をしています。

「Let's Do It Worldは、意義を生み出し、人類を次のレベルへと引き上げる機会を与えてくれる必要不可欠なものです。Let's Do It Worldの環境活動には、個人、地域、世界、すべてのレベルが関係しています！自分自身や環境に対して責任を持つことで、私たちは新しい現実を作り上げることができます。何をすべきで、何をすべきでないかの決断に向けての人類の姿勢は、確固たるものとなりました。

エストニアから世界へと発展したこの運動は、エストニア人の考え方の大きさ、自然との関わり方や自然そのものを雄弁に物語るものです。Let's Do It Worldは、全世界の市民の超貢献であり、世界を統一した考え方でまとめる一例です。」

Ursula von der Leyen
ウルズラ・フォン・デア・ライエン
WCDアンバサダー

欧州委員会の**ウルスラ・フォン・デア・ライエン**委員長は、WORLD CLEANUP DAYの後援者です。

「WORLD CLEANUP DAYの後援者であることを大変誇りに思います。私たちは、地球に対する接し方を変え、その資源を大切にし、生物多様性を維持する必要があります。誰もが、そして誰でも、貢献することができるのです。」

Merle Liivand
メルル・リーヴァンド
WCDアンバサダー

メルル・リーヴァンドはエストニア・タリン出身の競泳選手、モデル、アクアプレー、SWIMERA CEO、AMBASSADOR、トライアスロン選手、国際広報担当、オープンウォータースイマー。彼女は主に、現代の生きる人魚と氷の王女として知られており、水の世界に対する情熱と人生の探求をし続けています。

彼女は、海洋に関する法律を変えました。また世界経済フォーラムは彼女を気候変動と海洋汚染に関するフロントボイスに任命しました。マイアミビーチの市長は、彼女の誕生日である4月17日を「メルル・リーヴァンドの日」と命名したほどです。彼女は4つのギネス世界記録を持ち、アスリートとして、また海洋アンバサダーとして、その道を歩み続けています。

昨年は iHOLLYWOODのショートフィルム賞を受賞し、ハリウッドからグローバルインフルエンサーに選ばれました。彼女の最大の夢は、PLASTDEMIA（彼女自身の造語で、プラスチック感染症）の汚染から解放され、地球上のすべての面がきれいになるのを見ることです。

ヴァリュー、ミッション、ビジョン

Let's Do It Worldのコアヴァリューは、

COOPERATION（協力）、
PEOPLE（人）、
POSITIVITY（積極性）です。

Let's Do It Worldでは、変革は、積極的な協力、共に行動することによってのみ達成されると強く信じられています。私たちは、社会のあらゆる階層の人々を巻き込みながら、もう一度ごみのない世界の実現に向けて、その解決策を打ち立てるために手をとりあう必要があります。

私たちは、すべての協力体制にポジティブなエネルギーと信頼を注ぎます。必要な解決策に取り組む意欲のある人なら誰でも歓迎します。変革を起こしたい人ならどなたでも。

World Cleanup Day, ブラジル

ビジョン

清潔で健康的なごみのない世界

ミッション

Let's Do It World は、
数限りなく大勢のポジティブな人々とともに
地域や世界で協動して
固形廃棄物の危機に取り組む
グローバル組織です

ヴァリュー

協力

私たちは、力を合わせてこそ、
地球規模の課題に取り組む
ことができるのです

積極性

私たちは、非難はしません、
行動を起こすだけです

人

変革は人の中で、
人を通じて起こります

沿革

LDIWは世界最大の環境団体であり、
164カ国に活発なメンバーとチームが
あります。
私たちは、共同イベント
WORLD CLEANUP DAYを通じて
結束するユニークなネットワークであり、
すでに全世界で7,100万人以上の人々が
参加しています。

LDIWは、2008年5月3日に5万人の人々がわずか5時間でエストニアを清掃したことから始まりました。それ以来、多くの国がエストニアに倣ってこの運動に参加してきました。2011年には、国際的なクリーンアッププロジェクトを調整するためのLet's Do It 財団が設立されました。2012年はWCD2012として、96カ国でクリーンアップが行われました。

2018年に、世界各地で一斉にクリーンアップを行うWORLD CLEANUP DAYが初めて開催されました。この日は、157カ国から1,800万人がごみ拾いに参加しました。2019年、Let's Do It運動は再編され、集団で運営する組織としてNGO Let's Do It World が設立されました。

2019年、第2回WORLD CLEANUP DAYは180カ国で開催され、過去最高の参加者数である2,100万人以上を動員しました。2020年と2021年には、不可能と思われたことを実現しました。私たちは、COVID-19パンデミックの最中にWORLD CLEANUP DAYを開催したのです。

現在、WORLD CLEANUP DAYは世界のほとんどの国に広がり、2021年と2022年には、191カ国の人々が参加しました。

2008年 5月3日 — エストニアで5万人による初のクリーンアップ行動を実施

2009年-2011年 — エストニアに倣って各国でクリーンアップ活動を実施

2011年 8月4日 — 国際的なクリーンアッププロジェクトを調整するため、Let's Do It 財団を設立

2012年 — 世界96カ国で一連のクリーンアップ活動「WORLD CLEANUP 2012」を開催

2018年 9月15日 — 第1回「WORLD CELEANUP DAY」を157カ国で開催

2019年 2月26日 — 集団運営組織として「NGO Let's Do It World」を設立

2019年 9月21日 — 第2回「WORLD CLEANUP DAY」を180カ国で開催

2020年 9月19日 — COVID-19のパンデミックの最中、「WORLD CLEANUP DAY」を166カ国で開催

2021年 9月18日 — COVID-19下、「WORLD CLEANUP DAY」を191カ国で開催

2022年 9月17日 — 5回目の「WORLD CLEANUP DAY」が開催され、190カ国で1,500万人が参加

初めて行われたLet's Do It クリーンアップ、2008年エストニア

インパクト・モデル

Let's Do it Worldの究極のビジョンは、
ごみのない世界です。
気候変動、生物多様性の減少、深刻なごみ問題、
世界で取り組まねばならない変革は複雑です。
それは現在の社会の機能に層となって
深く組み込まれた要因で、
利害関係者に影響を与えるでしょう。
LDIWのメインプロジェクトである
WORLD CLEANUP DAYが、
社会のすべての人々を鼓舞し、
行動を起こさせることさえできれば、長期的な
インパクトを与えることができるのです。

**「社会のすべての人が立ち上がり、
行動を起こすように目覚めさせてこそ、
長期的な感銘を与えることが
できます。」**

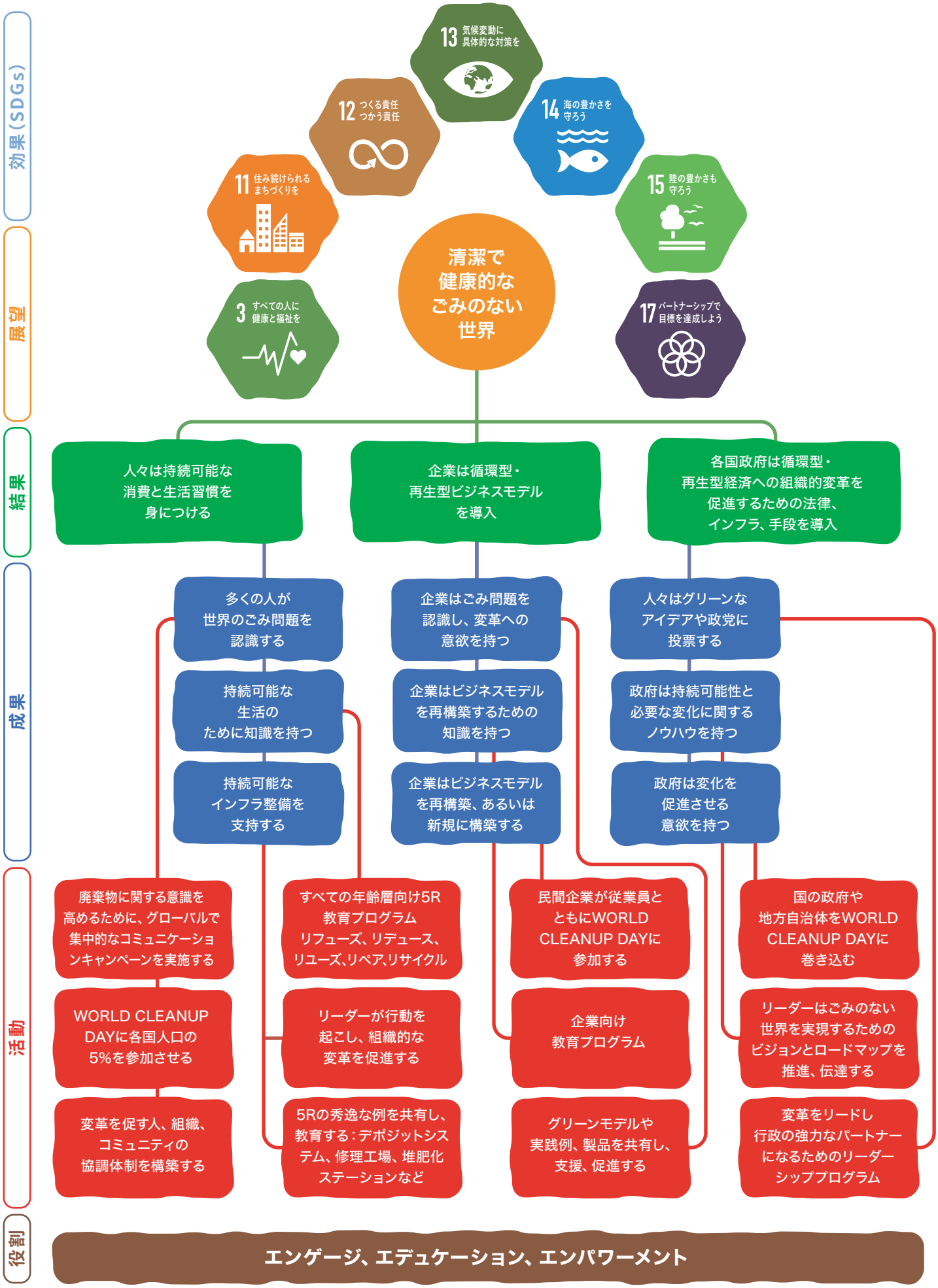
このインパクト・モデルは、WORLD CLEANUP DAYやLDIWの活動が、どんなに健康的でごみのない世界の実現に期待をかけているかを物語っています。WORLD CLEANUP DAYは、個人、組織、政府が行動を起こすきっかけとなるものです。また、ステイクホルダーたちがこれを契機に組織的な変革を起こしてくれさえすれば、WORLD CLEANUP DAYは長く影響力を行使していけることを示しています。個人は持続可能な生活スタイルを実践し、企業は循環型・再生型のビジネスモデルを導入し、政府には循環型・再生型の経済を支援する法律を採択してもらいたいものです。

私たちは、Let's Do It Worldの役割は、今切望されている変革の呼び水となり、教育を施し、行動することにあると考えています。そのため、私たちは各国の人口の少なくとも5%を参加に導くことを目標としています。社会的変化を生み出し、持続可能な未来への転換を加速させる転換点なのです。

LDIWのネットワークに参加している各国は、それぞれの国に特化したインパクト・モデルを持っているので、構築するためのガイドとして役に立つでしょう。

Let's Do It World は、164カ国の熱意あるリーダーやチームのネットワークから成り立っています。私たちは、パワーをもって教育に携わり、ごみのない世界を実現するために必要な社会の変革を主導してくれる次世代リーダーを育成しています。

World Cleanup Day エストニア


効果（SDGs）
展望
結果
成果
活動
役割
13 気候変動に具体的な対策を
12 つくる責任 つかう責任
14 海の豊かさを守ろう
11 住み続けられるまちづくりを
15 陸の豊かさも守ろう
3 すべての人に健康と福祉を
17 パートナーシップで目標を達成しよう
清潔で健康的なごみのない世界
人々は持続可能な消費と生活習慣を身につける
企業は循環型・再生型ビジネスモデルを導入
各国政府は循環型・再生型経済への組織的変革を促進するための法律、インフラ、手段を導入
多くの人が世界のごみ問題を認識する
持続可能な生活のために知識を持つ
持続可能なインフラ整備を支持する
企業はごみ問題を認識し、変革への意欲を持つ
企業はビジネスモデルを再構築するための知識を持つ
企業はビジネスモデルを再構築、あるいは新規に構築する
人々はグリーンなアイデアや政党に投票する
政府は持続可能性と必要な変化に関するノウハウを持つ
政府は変化を促進させる意欲を持つ
廃棄物に関する意識を高めるために、グローバルで集中的なコミュニケーションキャンペーンを実施する
WORLD CLEANUP DAYに各国人口の5%を参加させる
変革を促す人、組織、コミュニティの協調体制を構築する
すべての年齢層向け5R教育プログラム リフューズ、リデュース、リユーズ、リペア、リサイクル
リーダーが行動を起こし、組織的な変革を促進する
5Rの秀逸な例を共有し、教育する：デポジットシステム、修理工場、堆肥化ステーションなど
民間企業が従業員とともにWORLD CLEANUP DAYに参加する
企業向け教育プログラム
グリーンモデルや実践例、製品を共有し、支援、促進する
国の政府や地方自治体をWORLD CLEANUP DAYに巻き込む
リーダーはごみのない世界を実現するためのビジョンとロードマップを推進、伝達する
変革をリードし行政の強力なパートナーになるためのリーダーシッププログラム
エンゲージ、エデュケーション、エンパワーメント

ネットワークとメンバーシップ

164カ国からなるLet's Do It Worldのネットワークは、共通目標であるごみのない世界の実現に向けてポジティブな変革をもたらし、大きなパワーを発揮します！一緒にアクションを起こすことが、Let's Do It Worldの重要な価値観なのです。個人的な価値観とグローバルな価値観を一致させることが、Let's Do It Worldの活動精神です。積極的に協力し共に行動すれば、人を動かし、モチベーションを高め、最終的に成功につながるのです。

Let's Do Itネットワークのリーダーたちは、自国のチームとともに、この運動の原動力となっています。リーダーになること、そしてリーダーであり続けることは、日々難しい決断を迫られるということです。限られた資源、あるいはマイナスの資源の中で、いかにしてより多くのボランティアやサポーターを集められるか。グリーンウォッシュの道具にされずに、企業と共にポジティブな変革を生み出すにはどうしたら良いか。世界各地で社会的な混乱や不況、戦争などの緊急ニュースが報道される中、いかにして環境問題にメディアを惹きつけるか。そして、厳しい環境下でも高いモチベーションを保ちながら、変革をリードしていくにはどうしたらいいのか。

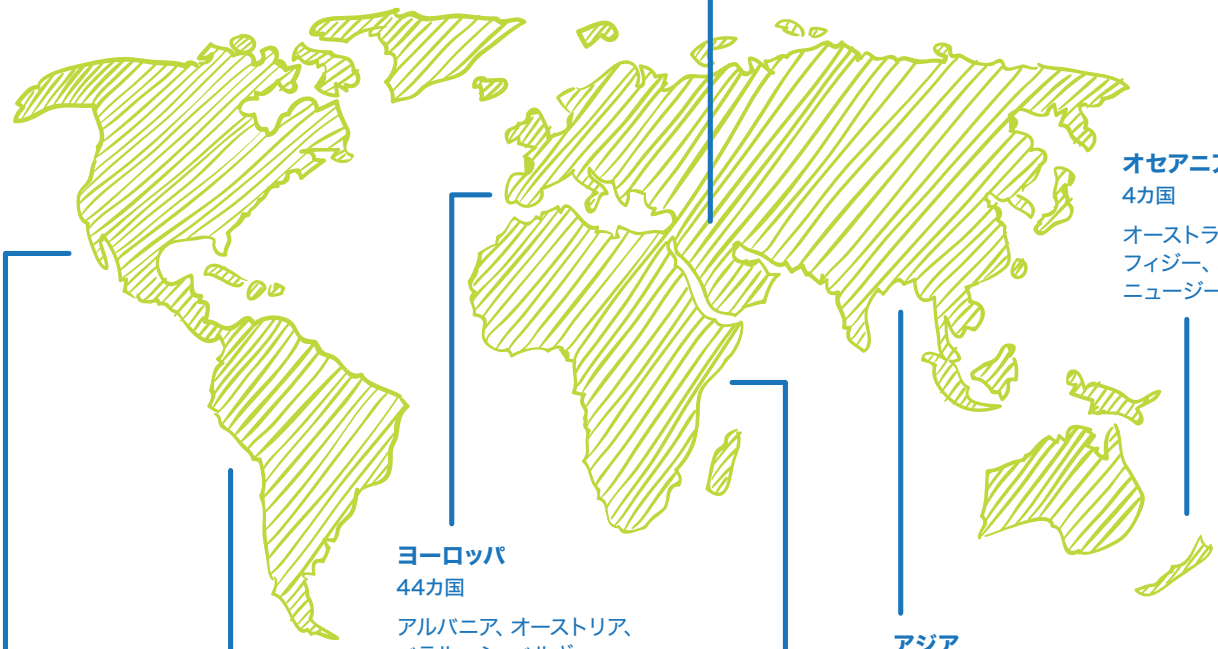
このネットワークのヒーローたちは、私たちに解決策を見出す力があることを証明しました。そして、普段の快適空間の範囲を超えた行動は、環境保全を考える者として、またリーダーとしてだけでなく、人間としての内なる成長を促すことを証明しています。リーダーであるためには、非常に強い意志を持ってあらゆる分野で協力し、相互支援体制を築くことが必要になります。

私たちはLDIWのメインキャンペーンであるWORLD CLEANUP DAYを通じて社会の変革を促し、LDIWネットワークが率いる環境保護構想のプラットフォームを築いています。学校、大学、自治体、地域社会における多くのLDIWの活動、プロジェクト、プログラムは、より良い環境教育の実現、持続可能な廃棄物管理プロセスの構築、地域社会との協力による解決策の模索に役立っています。これらすべてが、多くのLet's Do It Worldネットワークチームにとって、日々の仕事の基本となっています。

WORLD CLEANUP DAYに向けて活動を続け、ベストプラクティスを他の人々と共有するためのインスピレーションは、ネットワーク内部から生み出されるものです。Let's Do It World本部は、すべてのネットワーク・リーダーとチームに対して、感謝の意を表しきれないほどです。私たちは、ネットワークと一緒に作り上げ、組織の発展により高い責任を負う67カ国のLet's Do It World総会で承認された世界戦略のもと、一致団結して活動しています。

エストニアでLDIWグローバルサミット 2022年7月

Let's Do It World ネットワーク



西アジア
17カ国

アフガニスタン、バーレーン、インド、イラン、ヨルダン、カザフスタン、クウェート、キルギスタン、ネパール、オマーン、パレスチナ自治区、カタール、サウジアラビア、シリア、アラブ首長国連邦、ウズベキスタン、イエメン

オセアニア
4カ国

オーストラリア、フィジー、ミクロネシア、ニュージーランド

北アメリカ
2カ国

カナダ、アメリカ合衆国

ヨーロッパ
44カ国

アルバニア、オーストリア、ベラルーシ、ベルギー、ボスニア・ヘルツェゴビナ、ブルガリア、クロアチア、キプロス、チェコ共和国、デンマーク、エストニア、フェロー諸島、フランス、グルジア、ドイツ、ギリシャ、ハンガリー、イビサ、アイスランド、アイルランド、マン島、イスラエル、イタリア、コソボ、ラトビア、リトアニア、マケドニア、モルドバ、モンテネグロ、ノルウェー、ポーランド、ポルトガル、ルーマニア、ロシア、セルビア、スロバキア、スロベニア、スペイン、スウェーデン、スイス、オランダ、トルコ、ウクライナ、英国

アジア
22カ国

アゼルバイジャン、バングラデシュ、ブータン、カンボジア、中国、香港、インドネシア、日本、ラオス、マカオ、マレーシア、モルディブ、モンゴル、ミャンマー、パキスタン、フィリピン、シンガポール、韓国、スリランカ、台湾、東ティモール、ベトナム

中南米・カリブ海
22カ国

アルゼンチン、バハマ、ボリビア、ブラジル、コロンビア、コスタリカ、キューバ、キュラソー、ドミニカ共和国、エルサルバドル、グアテマラ、ハイチ、ハワイ、マルチニーク、メキシコ、パナマ、ペルー、プエルトリコ、スリナム、トリニダード・トバゴ、ウルグアイ、ベネズエラ

アフリカ
43カ国

アルジェリア、アンゴラ、ベナン、ブルキナファソ、ブルンジ、カメルーン、カーボベルデ、チャド、コモロ、コンゴ、コートジボワール、コンゴ民主共和国、エジプト、エチオピア、ガボン、ガンビア、ガーナ、ギニア、ケニヤ、レソト、リビア、マダガスカル、マリ、モーリタニア、モーリシャス、モロッコ、モザンビーク、ナミビア、ナイジェリア、レユニオン島、ルワンダ、サントメ・プリンシペ、セネガル、シエラレオネ、ソマリア、南アフリカ、南スーダン、スーダン、タンザニア、トーゴ、チュニジア、ウガンダ、ザンビア

LDIWネットワーク各国リーダー

受賞歴

Let's Do It Worldのグローバル活動は、
社会に前向きで大きな変化を
もたらしているリーダーやチーム共々、
各地域でも世界でも評価されています。
そのいくつかの賞をここで紹介し、
インパクトのある活動を行ったチームを
称えます。

昨年、ウクライナの若者たちによるLet's Do It ウクライナの国際人道プロジェクト**「Let's Do It Ukraine SOS」に、国連SDGsアクションアワードの「Honourable Mention Award」が授与されました。**150カ国、3,000の候補の中から選ばれた受賞です。おめでとうございます！

Let's Do It トルコが、トルコで開催されたWORLD CLEANUP DAYで「Zero Waste NGO Award 2022」を受賞しました。おめでとうございます！

過去には、Let's Do It Worldのグローバルネットワークの世界的な活動も評価され、**国連ハビタットの「Scroll of Honor Award 2021」を受賞しています。**

2019年には、WORLD CLEANUP DAYが「Energy Globe Award 2019」のファイナリストに選ばれました。
また、WCD2018の活動に対しては、ユネスコ／日本ESD（持続可能な開発のための教育）賞**「UNESCO- Japan Education of Sustainable Development prize」**が授与されています。

私たちは地域や地元での受賞や功績が認められていることを、とても嬉しく思います。これは、クリーンな世界を目指して地球上のすべての生き物のために努力を続けている、ネットワークのリーダーやボランティアにとって、大きな励みになっています。

国連SDGs Honourable Mention Awardを受賞したウクライナチーム

WORLD CLEANUP DAY 2022

2022年9月17日、
世界190カ国でWORLD CLEANUP DAY 開催
―戦争や紛争、自然災害にもかかわらず、1,500万人参加。

自然災害、紛争、戦争そして政治

2022年のWORLD CLEANUP DAYは、COVID-19 のパンデミックから世界がまだ落ち着いていないことを証明するものでした。気候変動の結果として、毎年増えている自然災害と異常気象を目の当たりにしています。

パキスタンでは、前例のないモンスーン雨により、国中で洪水や地滑りが発生し、国土の半分、数百万人が影響を受けています。それでもパキスタンチームは、例年なら200万～300万人を動員するWORLD CLEANUP DAYに、小規模ながら南部で1万5千人がクリーンアップ活動を実施しました。クロアチア、ルーマニア、コソボ、スロベニア、マケドニア、ベルギー、コスタリカ、カメルーンでも大雨のためにイベントを中止、または勇気あるボランティアにより小規模に活動を行わざるを得ませんでした。ブルガリアや中国の一部など、WORLD CLEANUP DAYの前週に暴風雨に見舞われた国もありました。

しかし、嵐だけではありません。スリナムやチュニジアでは、暑さのために活動が中止になりました。パレスチナの人々は、まだ暑くない早朝に史跡の清掃を行いました。

世界も落ち着きを失い、紛争や戦争が頻発しています。アフガニスタンでは、タリバンが市民活動に価値を認めない中でも、クリーンアップ活動が行われました。昨年は人口の約10%が参加したキルギスは、WORLD CLEANUP DAYの前日にタジキスタンの攻撃を受けて活動を延期しました。ウクライナは、ロシアとの戦争で多くの被害を受けました。しかし、それでも12万人近くを集め、「地雷の基礎知識と市民の安全を確保する方法」をオンラインで説明するとともに、紛争地域内の人目につかない場所で活動しました。また、多くのウクライナ人が戦火から逃れた先の国々でもクリーンアップ活動を行いました。例えば、ポーランドのある地域では、参加家族の約3分の1がウクライナ人だったそうです。

イランでは、最も重要な宗教的な弔いの儀式のために、WCD2022が延期されそうになり、苦戦しました。ガボンやデンマークなど、選挙と重なって混乱した国もありました。

ミャンマー

社会に与えた影響

WCD2022では、予想を遥かに上回るほどの協力があり、前向きに影響し合うことができ、そして数々の新記録が打ち立てられて、団結すれば持続可能な未来に向けて軌道修正することができるという希望が見えました。WORLD CLEANUP DAYは、キプロスにとって全土が団結し、自国の美しい島を守るための連帯責任を果たす新たなスタートとなりました。歴史上初めて、島のギリシャ側とトルコ側双方が、「共有の家」をクリーンアップするために集まりました。

ヨーロッパ最大のプラスチック輸出国であるオランダは、世界でも最大規模であること（プラスチック・スープ財団調査）を知り、廃棄物の輸出について行動を起こす必要性を認識しました。昨年は、オランダから7,000万キロのプラスチック廃棄物がインドネシアに流れていきました。今年のオランダのクリーンアップチームは、4万人の参加者と30社のスポンサー企業とともに、この問題を解決するためにインドネシアと緊密に協働しました。このチームは、EU域外へのプラスチック廃棄物の輸出を禁止することを最終目標に、廃棄物が他の国に流出しないようアドボカシー活動に力を注いでいます。EUはすでに廃棄物輸送規制の強化に取り組んでいます。すべての国へのメッセージは、自国をクリーンアップし、ごみを他国に流出させることがないようにしようということです。

台湾

廃棄されたごみには国境がなく、それは輸出の場合だけにとどまりません。台湾はリサイクルシステムが充実していますが、海流が海岸にごみを運んでくるのです。15,000人以上の人々が台湾の海岸をクリーンアップし、ごみのない世界を作るために貢献しました。

子どもと若者たち

モザンビーク

モザンビークは、一生懸命にやれば、必要な人数を集め、クリーンで健康的な地球を目指して一緒に頑張るよう働きかけることができることを証明しました。昨年は約25万人のモザンビーク人が地域のクリーンアップボランティアに参加しましたが、2022年にはその8倍になりました！参加者200万人のうち半数以上が小学生でした。モザンビークのリーダー、カルロス・セラ氏は、教育は未来への種をまくための重要なツールだと考えています。

持続可能な社会をつくるために、子どもや若者の参加が重要であると感じているのは、モザンビークだけではありません。エストニアでは、参加者の93%が子どもや若者でした。これは、ごみのポイ捨てを防ぎ、環境を保護し、環境と調和して生きていくことの必要性を認識させるために戦略的に決断されたものです。また、ドイツ、チャド、ポーランド、スペイン、コートジボワール、インド、スウェーデン、タンザニア、モロッコ、コンゴ民主共和国など、多くの国々で子どもや若者に特に焦点が当てられています。

多くの場合、子どもたちはタバコの吸殻などのごみを拾ったり、ミャンマーのように湖畔で酒の空き瓶を拾ったりしていました。ブラジルの若者は、WORLD CLEANUP DAYをきっかけに、ごみから解放され、世界を変えることが重要であることを理解しました。スペインの子どもは、プラスチックを拾うことを誇りに思い、プラスチックで魚が死んでいくのを見たくないと宣言しました。

イギリスでは、刑務所の若者がクリーンアップ活動に参加し、めざましい成果を上げています。このアイデアは、米国でも採用される予定です。ベネズエラでは、WORLD CLEANUP DAYに先立ち、子供や障害者のためのクリーンアップデーと、先住民のためのクリーンアップデーを設けましたが、WCD当日は、海のクリーンアップが行われました。

ビーチ、海と海洋

カナダは、海洋ごみにも着目しました。漁師とともに、古い網などの漁業公害を一掃しました。アイスランドも、海に全力注入しています。アイスランドのLDIWの創設者であるトーマス・クヌッツソン氏は、ダイバーとして水中世界の素晴らしさと同時に汚染も見てきた経験から、地球をクリーンアップすることに情熱を傾けています。彼は27年間、このミッションに取り組んでいます。

アイスランド

様々な種類のクリーンアップ

カンボジア

カンボジアの人々は、WORLD CLEANUP DAY 2022を記念して、音楽を流しながら川の清掃を行いました。2022年2月以来、彼らは川から約120トン（！）のごみを集めました。

デンマークの人たちは、ハイキングをしたりカヤックを漕いだりしながらごみを集めました。デンマークは、ヨーロッパで最も一人当たりの廃棄物量が多い国ですが、社会全体でごみ拾いや削減に取り組んでいます。

ギリシャは、一つの山からすべてのごみを一掃し、史上初のプラスチックゼロの山を作りたいと考えています。例えば、1980年代のコーラのボトルなど、その山で見つけた“奇妙なプラスチック製品”を集めた博物館を作る計画です。

WORLD CLEANUP DAYは、すでにラトビア社会に定着しており、大衆が参加しています。政府、大企業、そしてあらゆる年齢や能力の人々がこの運動に参加しています。人々はWORLD CLEANUP DAYに参加するだけでなく、国をより美しくするために「幸福の木」を植えています:)

クリーンな国と観光

国をクリーンに保つことは、観光や国民の所得の増加につながります。バハマの人々は、観光地であるバハマの自然を守ることは重要であり、将来的に他国の人々がバハマを賞賛することにつながるという結論に達しました。モルディブでは、観光地は比較的きれいですが、小さな島々はそうではないため、地元の小さな島々を中心にクリーンアップ活動を行いました。11月にはエジプトのシャルム・エル・シェイクでCOP27が開催されましたが、ゲストが到着する前にエジプト人が自国をクリーンアップしました。ナイル川はエジプト遺産の象徴ですが、世界経済フォーラムによると、世界の海洋ごみの90%を占める10の川のうちの一つでもあります。そのナイルをきれいにすることが、今回の活動の焦点でした。

モルディブ

クリーンになっています！

エストニアやキュラソーなどでは、ごみが散乱している場所を探すのに苦労するほどきれいになっているという嬉しい報告がありました。この「嬉しい問題」が、世界的に年々増えていくことを願っています。

2018年から2021年までのクリーンアップと比較すると、全参加国の19%である36カ国が過去最高のクリーンアップを行い、全参加国の45%である86カ国が、2021年と比較して参加人数が増加したと言えます。

WORLD CLEANUP DAY2022には、1,486万7,374人が参加しました。全体として、約6万トンのゴミが自然から取り除かれました。ボランティア達は、たった1日で約3,000万時間を環境保護のために捧げたことになります。

2018年から2022年の間に、合計197カ国がWORLD CLEANUP DAYに参加し、合計7,137万5,919人が参加しました。

私たちの記録によると、WORLD CLEANUP DAYに一度も参加していない国は、ベリーズ、リヒテンシュタイン、ソロモン諸島、エスワティニ、トルクメニスタン、ツバルだけです。これらの国々が私たちの大きな家族の一員となることを楽しみにしています。

World Cleanup Day ポーランド

世界の皆さん、ありがとう

9月17日、WCD2022、Let's Do It Worldは、第5回WORLD CLEANUP DAYを記念して、限定版「サンキュートークン」のプログラムを開始しました。私たちはまた、ごみのない世界をつくるというミッションのもと、地球上のあらゆる地域の人々を結びつける世界的な動きが広がっていることを嬉しく思っています。あなたの貢献が世界に大きな変化をもたらしたことを忘れないでください。私たちの感謝は尽きません。

このトークンは、皆さんの貢献に対する個人的な証明書と、大きな感謝の気持ちとして作られました。トークンは、参加者のみなさんをLet's Do It Worldの大きな家族に迎え入れるものです。

World Cleanup Day 香港

WORLD CLEANUP DAYの結果

THANK YOU

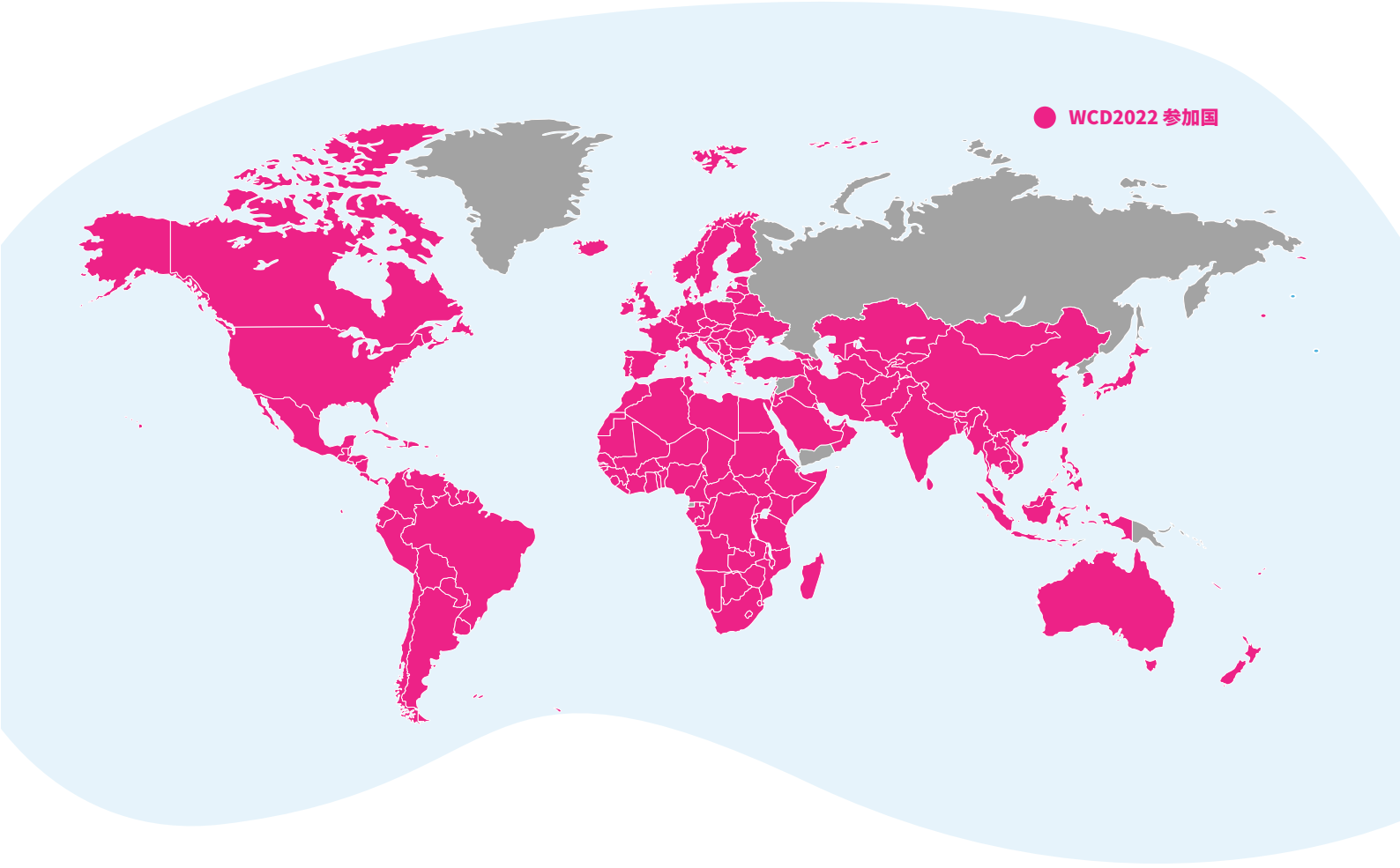
参加者
1,500万人

参加国*
190
カ国

WORLD CLEANUP DAY 2022 17 SEP

ボランティア時間
3,000万

ごみ回収量
6万
トン



参加者数 2022年トップ10

メキシコ	2 385 720
インド	2 100 000
モザンビーク	2 000 000
インドネシア	1 896 301
アメリカ合衆国	1 250 000
エチオピア	524 211
イタリア	370 793
フィリピン	359 110
カザフスタン	338 554
中国	320 000

人口参加率 2022年トップ国

ラトビア	8.65%
モザンビーク	6.07%
キュラソー	4.39%
ブルガリア	4.12%
エストニア	3.76%
キルギス	3.52%

2018-2022 WCD5回のうち

参加国の19% 36カ国が
今年のWCDが過去最高となった

参加国の45% 86カ国が
昨年より参加者数が上回った

7,100万人のボランティアが 197カ国*から 2018-2022年に参加

*世界203の国と地域のうち

WCD2022のインパクト

WORLD CLEANUP DAYは、単なる清掃活動ではありません。インパクトを与え、社会に変化をもたらすためのものです。

LDIWリーダーズ調査2022*によると、LDIW各国リーダーの69%が自国でのWORLD CLEANUP DAYの結果に満足しています。満足度が最も高いのはヨーロッパ（78%）、最も低いのはアフリカ（48%）でした。

69%
のリーダーがWCD2022の結果に満足

62%のリーダーが、自国での廃棄物汚染に対する意識を高める上で、WORLD CLEANUP DAYの影響は大きいと感じています。ヨーロッパと比較すると、アフリカのリーダーは、WORLD CLEANUP DAYによる意識向上への影響力にあまり満足していません。概してアフリカのリーダーたちは、持続可能な変革の維持や、効果的なごみ管理の解決策、そしてそれを支援する法律の制定への取り組みに関して、当局と強い関係を築きたいという望めぬ願望を持っています。

WORLD CLEANUP DAYより以前の8〜10年前からクリーンアップ活動を行っていたリーダーたちは、現在のWORLD CLEANUP DAYの効果を自国で目の当たりにしています。グローバルネットワークの中で最もクリーンアップ活動の経験が長いアメリカやヨーロッパのリーダーたちは、アフリカやアジアのリーダーたちに比べて、WORLD CLEANUP DAYによるインパクトをより強く感じていると報告しています。

リーダーたちは、WORLD CLEANUP DAYに年々参加者が増え、報道が増え、自主的なクリーンアップが増え、政府の参画が増えたと報告しています。

持続可能な変化を生み出すためには、公共機関の参画が不可欠です。私たちは、80%の国で自治体が参加し、国の公共セクターの参加も増えていることを誇りに思っています。国の公共機関の代表者が参加した国は69%、環境大臣が参加した国は38%、その他の大臣が参加した国は27%でした。しかし、大統領が参加したと回答した国はわずか2%であり、今後の大統領の参加に期待したいところです。

全般的に、リーダーは、WORLD CLEANUP DAYが社会に根付き、多くのコミュニティで公式な日になりつつあることに満足しているようです。

リーダーたちは、WORLD CLEANUP DAYの後に、学校（62%）、コミュニティ（61%）、企業（55%）での教育プログラムや、ゴミの分別や堆肥化のプログラム（39%）、その他の活動（26%）などのフォローアッププロジェクトを実施しています。

21%の国がWORLD CLEANUP DAYキャンペーンに5万ドルから100万ドル（米ドル）を費やし、一方40%の国は5千ドル以下です。資金調達と組織的な変革の創出が、大多数の国にとって最大の課題であることに変わりはありません。

89%
のリーダーがWCD2023の開催に強い意欲を持っています。

LDIWのリーダーの89%が、2023年9月16日に開催される次回のWORLD CLEANUP DAYの開催に非常に意欲的(10段階中7以上)だと感じており、2021年の同時期に比べ、意欲が高まっていることがわかりました。また、「あまりやる気がない」と感じているリーダーはわずか5%で、そのほとんどは5年以上継続してWORLD CLEANUP DAYを開催しているリーダーです。

WORLD CLEANUP DAYの最も重要な効果は、人々をひとつにまとめ、ごみ問題に対する意識を高め、持続可能でごみのない世界を目指してさまざまな部門どうしで協力するきっかけを作ることです。

*2022年12月に76カ国が参加して実施されたLet's Do It World リーダー調査に基づく

感銘を受けた活動報告

アフガニスタン

9月17日のWORLD CLEANUP DAYに、
Let's Do It アフガニスタンチームは、
アフガニスタンのカブールとニガハル州で
クリーンアップ活動を実施しました。
800人のボランティアを動員し、
個人またはグループで、
それぞれの街や村のクリーンアップを
行いました。
その結果、約10トンのごみを
回収することができました。

このクリーンアップ活動の目的は、単にごみを片付けるだけでなく、アフガニスタン社会に市民活動やボランティア活動の文化を普及させることでした。Bureau for Rights-Based Development (BRD・開発/人道支援組織)は、積極的に市民やコミュニティ、ステークホルダーの環境に対する意識を高め、環境破壊という深刻な問題に対して共に取り組む機会を提供しています。

アフガニスタンは現在、悲惨な人道的危機に瀕しています。私たちは、このようなクリーンアップキャンペーンを通じて、地域社会や市民社会が参加し、地域社会とともにこれらの問題に取り組むことができる市民のための場を促進・創造してきました。

アフガニスタンでのクリーンアップキャンペーンは、2002年からアフガニスタンで活動している権利に基づく開発団体、Bureau for Rights-Based Development (BRD)が企画・運営しています。

インドネシア

2018年から2022年まで5回の
WORLD CLEANUP DAYの
参加者数の合計で、
最も多くのボランティアを集めた国として
1位を獲得したことは、快挙です！
しかし、WCDインドネシアの
チームワークはそれだけにとどまらず、
2022年にはインドネシアを襲った
COVID-19パンデミックの中で、
オンラインとオフラインのハイブリッド形式を
積極的に進めてきました。

インドネシア全土34州でのクリーンアップ活動に加え、多くの州チームが一般市民や学校を対象とした教育活動を行っています。ごみの分別、管理、廃棄物が私たちの健康や環境に与える影響、ごみ銀行など、廃棄物に関するさまざまな題材がその教育活動で取り上げられています。

WCDインドネシアは、政府、企業、地域社会、学校など、さまざまなステークホルダーと連携しています。国・州レベル（環境森林省、海洋・投資担当調整大臣府、人間開発・文化担当調整大臣府）、州レベル、市・地域レベル、さらには村レベルなど、さまざまなレベルの政府関係者が私たちの運動を支えてくれています。インドネシア環境森林省は、毎年9月のWORLD CLEANUP DAYをカレンダーに掲載し、州・地域（市・区）レベルの環境サービス員を積極的に動員し、クリーンアップ活動を支援しています。

今年のWORLD CLEANUP DAYは、市民の大きな熱気に包まれました。その結果、9月10日から25日までのほぼ1カ月間、インドネシア全土でクリーンアップ活動が行われました。WCDインドネシアチームは欧州連合と協力し、EU気候外交ウィークの一環でプロギング・イニシアチブをグランドイベントとして開催しました。ナショナルチームは、年に一度のクリーンアップイベントのほか、毎月の活動も行っています。例えば、ウェビナー、学校巡回興行、教育イベント・ワークショップ、インスタグラムライブ、他の環境コミュニティとのネットワーク構築などです。

クリーンアップの精神は、年に一度のイベント時だけに現れるものではありません。メインイベントの後、ナショナルチームはデジタルクリーンアップや、市民宅の不用品を再利用するための無料断捨離サービスも実施しました。また、地域によっては、毎週、毎月、定期的にクリーンアップ活動を行っているところもあります。このように、WORLD CLEANUP DAY運動は、環境保全のための持続可能な取り組みとして、徐々に浸透してきています。今後もずっとこの精神を大切にしていきたいと思っています。

メキシコは動植物の多様性に
富んだ国であり、各州に多くの
生物多様性が存在します。
私たちは、生態系の保全と保護を目指し、
クリーンアップや環境保護活動に
取り組んでいます。
私たちの活動では、
NGO、企業、政府、地域社会、
そして多くの人々の善意と協力のもと、
生息地の継続的な改善に
取り組んでいます。

すべての活動は、私たちが「Operative Cell」と呼ぶ全国のチームが、国の内陸部で行っています。2022年、Let's Do It メキシコは379のチームや学校、大学、コミュニティ、その他のNGOから238万5,720人のボランティアが参加しました。クリーンアップ活動の後、参加した各州で400万本以上の樹木の再森林化を行い、WCD2022の活性化に貢献しました！

今年は、国やメキシコ政府が認めた環境イベントに参加するだけでなく、65社以上の会社スタッフと協力して、環境啓発活動を行うことができました。WORLD CLEANUP DAYには、メキシコ共和国32州のうち、すでに18州が参加しています。

認知度を高めるために、100万人以上が視聴する全国メディアに出演しました！

世界で初めて、たばこの吸殻をセルロースに変えるリサイクル工場を作りました。800万本以上の吸殻を回収し、政府と協力して、吸殻のリサイクルを支持する法律制定に取り組みました。

WCD2022を記念して、メキシコシティーでグレート・レースとフェスティバルを開催しました。1年を通して、200以上のデジタルクリーンアップを実施し、企業向けの会議に参加し、学校や大学で意識を高め、イベントで展示会を開催してきました。私たちの取り組みのおかげで、190万4,000個の照明のつけっぱなしを防ぐことができました。

メキシコ

ウクライナ

**2022年9月17日、ウクライナ人は
世界191カ国ともに、
WORLD CLEANUP DAYに
参加しました。
全面戦争にもかかわらず、
ウクライナの24地域と海外から
119,926人が、ウクライナで行われる
今年最大のエコ・イベントに参加しました。**

小学生、学生、当局の代表者、社会的責任のある企業、メディア、スターアンバサダー、エコ活動家、関心のある市民が5,133箇所を一斉に掃除しました。その結果、236万8,228キロのごみが回収され、7万547キロの二次原料(リサイクル原料)が処理に引き渡されました。この二次原料で得られた資金は、ウクライナ陸軍を支援するために寄付されました。

市民は、昔ながらの掃除、施設や組織の敷地内でのごみ拾い、個人的なクリーンアップ(特に、家庭内の片付けや防寒用などのチャリティ向けの不用品収集)、瓦礫の解体、プロギング(ジョギングしながらゴミを集める)、「Find, sort, return」リサイクルポイント(リサイクル品を分別してリサイクルに出す)を示した全国マップ(www.recyclingpoints.org)を作成するなどの活動に参加しました。

戦況に関連して、全ウクライナ青年運動「Let's do it Ukraine」は、インターネットを通じて参加する新しい形式のデジタルクリーンアップを始めました。このイベントでは、150万7,164GBのデジタルごみが除去されました。また、参加者は、376,379トンのCO_2排出と753,582kWhの年間エネルギー使用量を削減することができました。

エストニア

**時間とともに、
WORLD CLEANUP DAYは
エストニアで大きく変化・発展してきました。
個人の参加を呼びかけた2018年は、
1万人のボランティアという
低い参加レベルでした。**

エストニアでのLet's Do It 運動は主に、元の2008年にならって5月に行われます。それに加えて9月にWORLD CLEANUP DAYを開催するというのは新しい試みで、エストニアに2日もやる必要があるのかという疑問の声もありました。その後、学校や幼稚園で実施するクリーンアップ活動のフォーマットを作成しました。また、環境に関するトーキングポイントを考案し、エストニアのすべての教育機関に参加を呼びかけました。現在、エストニアではクリーンアップボランティアの大半が若者で、2022年にはその数が45,000人にまで達しました。クリーンアップ活動の最後に大きなコンサートを開き、参加校の中から1校に抽選でプレゼントが贈られたところもあります。

2021年からは、企業にクリーンアップ活動への参加を呼びかけるようになりました。2022年には、コミュニティとコミュニティが主催するクリーンアップ活動に焦点を当てました。こうした方向性の展開は、2023年の最重要課題でもあります。

現在、WORLD CLEANUP DAYの参加者数は5万人に達し、エストニアで最大かつ最も影響力のある環境イベントとなっています。

コロンビアでは、350カ所以上で
クリーンアップ活動を行い、参加者は
2万2,000人以上でした。
720トン以上のごみと
15,000本の吸殻を回収しました。
デジタルクリーンアップでは、
2,000ギガバイト以上が削除されました。

これは、ナショナル・リーダーたちのチームと、非営利団体や各領域のコミュニティの協力を得た、すべてのボランティアがサポートしたお陰です。

Día Mundial de Limpieza (WCD) 2022に貢献された方々の努力、時間、献身に感謝します。私たちにとって、皆様からのご支援、ボランティア活動、リーダーシップをいただけることは、喜びであり、光栄なことです。今年は、各国のリーダーやボランティアのチーム全員の努力のおかげで、記録を更新することができました。

私たちは、環境を意識した消費と循環型経済キャンペーンを通じて、環境教育を続けています。

やったね、コロンビア!

コロンビア

イラン

**ボランティア活動は常に挑戦的です。
困難を伴う複雑な状況においてこそ
素晴らしいストーリーが生まれます。**

私たちのストーリーは、WCD2022の前日に当局から電話があり、許可を得ていたにもかかわらず、イベントの計画をすべて中止しなければならないと言われたことから始まります。

WCD2022は、イランで最も重要な宗教的な弔いの儀式と重なり、全国から何十万人もの人々が集まる予定でした。当局は、渋滞や人々の安全について懸念していました。しかも、WCDのハッピーな雰囲気は、弔いの儀式の雰囲気にはそぐわないと判断されたのです。

せっかく1年かけて準備してきたのに、このメッセージですべてが台無しになってしまう。まさに苦境に立たされました！

しばらくして、私たちは気を取り直して事態を理解しました。

数時間しかなかったものの、あきらめずに解決策を探そうと思い、この大きな宗教儀式の主催者に連絡を取り相談しました。時間がない中、最後の最後に私たちが企画した人の多い場所でのクリーンアップ活動に、儀式主催者もメンバーとともに参加することで合意に達しました。

最終的には、とてもよい結果となりました。予想外の複雑な状況を、最大限に活用することができたのです。参加者の数が予想を上回っただけでなく、主催者側からも、この協力関係を翌年も継続したいとの申し出がありました。

したがって、WCD2022は、これまでで最も大きく、最もインパクトのあるイベントだったと言えます。友人たちへのアドバイスです。困難にぶつかったら、この言葉を思い出してください。「方法を見つけるか、作るか、そのどちらかです！」

インド

Let's Do It インドは、
WCD2022に、
64の省庁・自治体、55の企業、
60の大学・機関の支援を受け、
全29州、642都市、7842校を含む
200万人以上の人々を
集めました。

2018年の発足以来、現在Let's Do It インドは、全国で5,500人以上のアクティブなボランティアとともに活動するまでに成長しました。私たちは、環境保護キャンペーンやイニシアチブを通じて、より良い未来を創造するためにポジティブな社会変革をもたらす活動をしています。これらは、教育、ガバナンス、健康とウェルネス、クリーンアップ活動、持続可能な観光と文化活動の促進など、Let's Do It インドの精神に密接に適合する社会のあらゆる分野を対象としています。

年間を通じて、ウェビナーやワークショップ、リーダーズアカデミーなどを四半期ごとに開催して大衆を動員し、環境省はそのサポートパートナーとして活動しています。

Let's Do It インドは、世界で最も若い国を世界で最もクリーンな国にするための動員の原動力として活動しています。

**WORLD CLEANUP DAYは、
ごみのポイ捨て問題、そして環境や
健康への影響という問題に目を
向けさせる手段として、
世界中で称賛されています。
モザンビークでのこのイベントの目的は、
社会全体を結集し、
健康な環境と住民の生活の質を
向上させることです。**

モザンビークでは、9月16日から17日にかけて、WCD2022が開催されました。16日は、全国の小学校でごみ拾い活動や意識啓発、講演会などが行われ、過去最高の150万人のボランティアが参加しました。日程は、学校での講義やクリーンアップ活動を通じて、子どもたちや青少年の参加を最大限に確保できるよう、教育・人間開発省のトップと戦略的に決めました。Let's Do It モザンビークのボランティアは、学校でのWORLD CLEANUP DAYを成功させるために、全国で先生たちと一緒に活動しました。

17日には、モザンビークで過去最高の参加率となり、約50万人のボランティアが海岸や自宅付近、近隣の清掃に参加し、固形ごみの回収量はなんと7,000トンにも達しました。これを達成するためには、国土環境省をはじめ、州、県、市町村の関係機関との連携が決め手となりました。

全国のボランティア参加者数で、9月16日から17日にかけて最も多く参加したのはマプト市で、35万3,347人が参加しました。2位はマプト州で、31万7,655人が参加しました。3位は北部のナンプラ州で28万3,876人でした。

WORLD CLEANUP DAYに先立ち、8月17日から9月14日にかけて、一連の能力向上セッションが開催されました。このセッションは、活動家、ボランティア、パートナー、自治体の中心人物、そしてトレーニングに関心のある市民に対して、WORLD CLEANUP DAYを広めることを目的としました。能力開発セッションの主なテーマは以下の通りでした。

i. 廃棄物汚染の影響
ii. WCDの着手
iii. 衛生教育
iv. 家庭からのごみゼロ
v. 循環型経済

これらのテーマは、WORLD CLEANUP DAY以降も、地域レベルで公共の場を清潔に保つ取り組みができるようにすることを目的としました。WORLD CLEANUP DAYに向けて能力開発教育を受けた1,408人の参加者たちは、南部、中部、北部の各地域を担当し、コーディネイト、ロジスティックス、データ共有の面でイベントの成功に大きな役割を果たしました。

きれいな地球をつくるために力を合わせましょう！

モザンビーク

World Cleanup Day トーゴ

グローバルプロジェクトとキャンペーン

2022年LDIW年次総会
1月27日～30日

2022年1月27日から30日にかけてバーチャルで開催されたLet's Do It World カンファレンスには、1,000人以上の視聴登録がありました。この会議は、Let's Do It ドイツとLet's Do It World本部の協力のもと、Let's Do It インドネシアチームが主催しました。

4日間にわたり、20以上のセッションが行われ、世界中から集まった63人の素晴らしい登壇者が、ごみのない世界を目指して前進するための最善策、インスピレーションに満ちた個人的な話、新たな経験や発見を共有し合いました。単なる会議ではなく、大きなLet's Do It Worldファミリーの集会となりました。

基調講演者
ロベルタ・メツォラ欧州議会議長

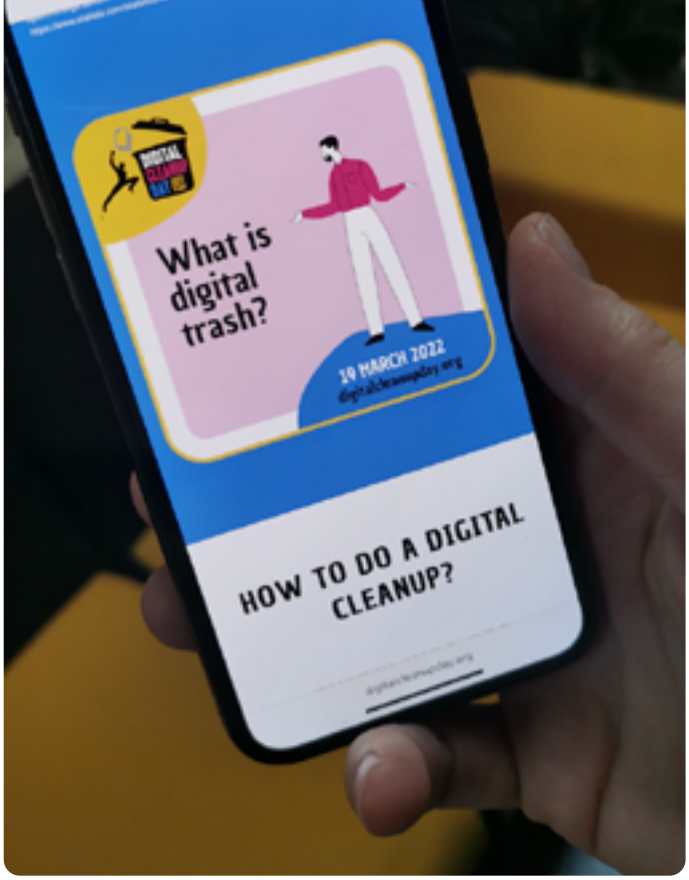
2020年ドバイ国際博覧会
2021年10月1日～2022年3月31日

2021年10月1日から2022年3月31日まで、アラブ首長国連邦のドバイで開催されたExpo 2020。当初は2020年10月20日～2021年4月10日に開催予定でしたが、COVID-19の大流行により延期されました。Let's Do It Worldは、Expo 2020 Dubaiにエストニア公式ナショナルブースの一部として参加しました。

ブースでは、WORLD CLEANUP DAYとデジタルクリーンアップデーをイベント来場者に紹介しました。さらに、LDIWはExpo 2020 Dubaiのパビリオンとそのゲストの間でデジタルクリーンアップチャレンジを行い、余分な写真やビデオ、特にイベント中に撮影したものを削除するように呼びかけました。

51カ国のパビリオンが「Expo 2020 Dubai デジタルクリーンアップチャレンジ」に参加し、7万8,000GBを超えるデータを削除しました。Let's Do It World代表のヘイディ・ソルバとLet's Do It World 事務局長のアンネリ・オフヴリルは、最も優れたパビリオンを表彰し、その成果を公に称賛しました。

デジタルクリーンアップデー2022
3月19日



3度目となるデジタルクリーンアップデー2022は、3月19日に開催され、124カ国の人々が気候変動に取り組むことを目的として参加しました。世界中で、自分たち個々のデバイスから不要なファイルを削除しました。最も参加者が多かったのは台湾、次いで米国、スペインでした。最大のキャンペーンはフランスで開催されました。

このイベントの結果、53万884GBのデータが削除されました。インターネットとそれを支えるシステムによって、年間約10億トンのCO2が発生しています。デジタルクリーンアップデーの成果は、約133トンのCO2排出量の削減につながり、気候変動を遅らせることに貢献したことになったでしょう。

124
カ国

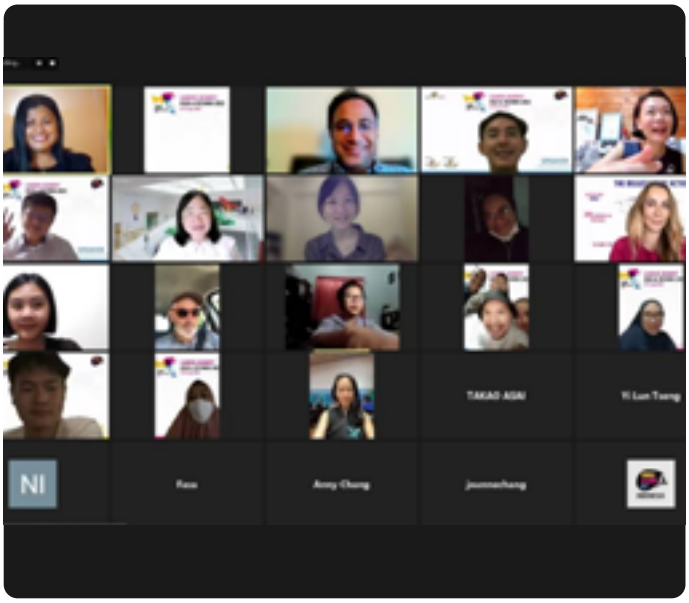
530,884
ギガバイト削除

133トンの
CO2削減

アジアリーダーズアカデミー
7月29日〜31日

7月29日から31日にかけて、アジア・オセアニアリーダーズアカデミー2022がオンラインで開催され、20カ国から70名以上の参加者が集まりました。リーダー達は7名のゲスト講演者から大いに学ぶ事ができました。講演者たちは、産業界や政府機関など様々なバックグラウンドを持っており、サステナビリティ計画やその取り組みを拡大する方法について、専門的な見地から意見を述べました。例えば、農業のサーキュラー・イノベーションや、長期的な環境保護プロジェクトに若者を参加させることなどです。

とても刺激的な3日間でした！講演者の皆さん、そして準備にあたったLet's Do It 台湾とLet's Do It インドネシアの皆さん、本当にありがとうございました。また、アジア地区ディレクターのレオ・リンさんと、アジア地区コーディネーターのアグスティーナ・イスカンダルさんにも大変感謝しています。今回もまた、リーダー同士の絆を深めることができました。シンガポールのチュン・フイさんは「団結は力なり！皆さん、ありがとうございました！」という言葉を残しました。



Let's Do It 台湾 は、アジアリーダーズアカデミー2023を対面型の会合として台湾で開催する予定です。対面とバーチャルの両イベントは、台湾で影響力のある社会的企業ハートバレーESG教育園によって進行されます。

国連デーの公式提案

2021年9月、国連ハビタット(国連人間居住計画)CEOのマイムナ・モッド・シャリフ氏は、ケニアを訪問中のエストニア大統領（当時）ケルスティ・カリュライド氏に、WORLD CLEANUP DAYを国連の公式行事に制定するために、国連総会に提案することを検討してはどうかと提言しました。WORLD CLEANUP DAYは、人々を環境問題解決に取り組ませる実証済みモデルです。Let's Do It Worldは、エストニア政府とともに、国連にこの提案をするための準備を開始しました。

WORLD CLEANUP DAYを国連の公式な日にすることは、その認知度を高め、社会により大きなインパクトを与えるために不可欠です。また、LDIWと一般市民や市民社会組織につながっているLDIWメンバー組織との協力関係を深めることになるでしょう。本決議案は、6月の国連ハビタット総会において、WORLD CLEANUP DAYを公式な国連の日とすることを提案した上で、最初の投票が行われる予定です。最終的な投票は、2023年9月にニューヨークで開催される国連総会で行われる予定です。

LDIWグローバルサミット2022
7月5日〜8日

LDIWは7月5日から8日にかけて、エストニアのクラーラマンニ・エコリゾート（Klaara-Manni Eco-Resort）でグローバルサミットを開催しました。2年以上にわたるコロナ規制を経て、各国から30人以上のLet's Do Itリーダーがエストニアに集まりました。

各国のリーダーたちは、自国の環境を形作ることを目的としたグリーンプロジェクトについて、知識と知恵を共有しました。また、直面する課題や解決策も多種多様で、私たちの住む世界の多様性を垣間見ることができました。

会場となったエストニアのパルヌやクラーラマンニのハイキングコース、美しいソーマー国立公園などの田園風景は、自然を保護し、共通の故郷である地球のために協力し合うという、我々の運動の存在目的の根底に流れる力強い意味を与えてくれました。

エストニア市民社会財団の皆様、このイベントを支援し、実現させていただき、ありがとうございました！

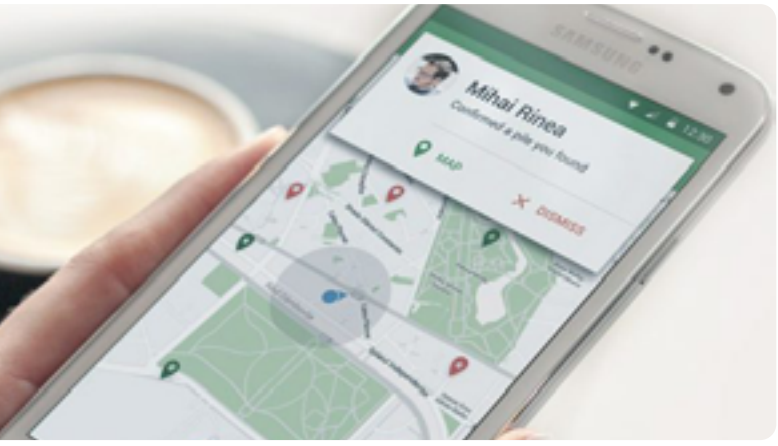
ネットワークからのプロジェクト

IRRC：パキスタン・サクランドの統合資源回収センター

統合資源回収センター（IRRC）は、環境、健康、そして経済的な利益を社会に提供しています。環境・廃棄物管理会社Constant Wasteのアブドゥル・ハク・バングラニ氏とLet's Do It パキスタンがサクランド(Sakrand/地名）で主導しているIRRCは、現在40人に仕事を提供しています。このセンターの目的は、ごみを収集し、8種類に分別することです。

IRRCは、良質の材料を分別、再利用できるよう洗浄した上で販売し、再び流通させることができます。このプロジェクトの副産物として、庭や公園、学校、農場で再利用できる質の高いコンポスト材料があります。また、このセンターは、大学やアカデミーの多くの学生の研究やプロジェクトも可能にしており、他の国も追随できる拡張性のある事例です。

Let's Do It ルーマニアアプリ 自治体との連携強化



イオヌット・イオルダチェスク氏が作成した「Let's Do It ルーマニアアプリ」は、地域の不法投棄ごみに関するデータを収集し、自治体への報告を可能にするものです。正しい情報を得ることで法的な嘆願書を作成することができ、自治体は不法投棄されたごみを処理してシステムに報告することで、社会全体がそれを認知することができるようになります。

最初のパイロットプロジェクトでは、5,000トンのごみデータが提供されました。また、市民とのコミュニケーションの流れができるため、当局がこのようなシステムに関心を持っていることも確認されました。この取り組みは、当局にやる気を起こさせます。当局だってもっと頑張りたいと思っているのです！もう一つの利点は、コミュニティが当局に問題を提起することに自信を持ち、これをやれば問題が解決させられると理解できるようになる事です。

Let's Do It ルーマニアのプラットフォームは、他のどの国でもモデルになり得ます。このシステムを支える法的枠組みにはノウハウが必要であり、イオルダチェスク氏は、他の国に広げるチームを立ち上げました。さらに、報酬制度も導入し、プロセス全体をゲーム化する予定です。

Let's Do It ナミビアがリードする持続可能な環境教育プログラム

持続可能な環境教育プログラム（SEEP）は、Let's Do It World と Let's Do It ナミビアによって運営されており、アフリカの学校に環境教育の知識と活動を伝えるという崇高な目的をもっています。このプログラムは、国連の持続可能な開発目標に基づき、固形廃棄物、気候変動、循環型経済への移行に向けた基盤作りに特に重点を置き、環境行動の最善策への意識を高めることを目的としています。

このプロジェクトは、ナミビア全土の42校を対象に、環境教育の指導者からのサポートを受けながら、子ども達に力づけとなる学習指導を行い、学校内でグリーンプロジェクトを立ち上げるよう働きかけました。選ばれて受賞したプロジェクトは、ナミビアの教育省や環境省や地元当局の協力を得て、メディアでその成功ぶりが紹介されました。私たちは、Let's Do It Worldのネットワーク内で、SEEPプロジェクトの事例を他の国にも広げていきたいと考えています。このプログラムは、エストニア開発基金の支援を受けています。

Let's Do It ウクライナSOS

戦争の初日から、全ウクライナの青年運動であるLet's do it ウクライナチームは、国際運動 Let's do it World の支援を受けて、あらゆる力を結集し、世界中のボランティア、組織、自治体、オピニオンリーダーを団結させて、最大級の国際人道プロジェクトを作り上げました。「Let's do it Ukraine SOS」です。このプロジェクトは、水、食料、医薬品、防寒着などの基本的な必需品を提供し、市民の命を救うために作られました。

現在、8,961人のボランティアが人道的任務の実施に携わり、さらに後方支援のために469人のロジスティック・ボランティアがウクライナの各地から参加しています。

2022年3月以降、「Let's do it Ukraine SOS」のボランティアは、以下のことを行いました。

9,814.6トンの
人道支援物資の調達と配布

115万2,548人のウクライナ人に
人道的支援を実施

59万9,354個の
食糧キットの配布

ウクライナのさまざまな地域で
人道支援物資の
ロジスティクスを組織

合計で1億4,720万ドルに相当する支援をウクライナ人に提供

Let's do it ウクライナは、国内避難民のための人道的シェルターのネットワーク「Let's do it Ukraine Houses」設立にも積極的に取り組んでいます。民間人と活動家の双方が安全に居住、開発、リモートワークができるように、ボランティアたちは古い建物をシェルターやコワーキングセンターに整備しています。キーウ、チェルニウツィー、ドニプロペトロウシクの各州に作られました。

オンラインでの寄付はまだ可能です：
letsdoitukraine.org

循環型経済コミュニティプロジェクト モザンビーク

Let's Do It モザンビークは、定期的なクリーンアップ活動に加え、環境教育や循環型経済プロジェクトにも力を入れています。廃棄物回収業者からガラス、プラスチック、錫を買い取り、循環型経済や生態系の修復に役立てています。例えば、使用済みのガラスを粉砕して作ったガラスの粉からブロックを作るなどです。Let's Do It モザンビークのリーダー、カルロス・セラ氏とそのチームが率いる最も評価の高いプロジェクトのひとつは、17万本のガラス瓶を主な材料として再利用し、地域のための教育センターを建設するというものです！

もうひとつの基本的な活動は、環境教育です。省庁での勤務経験もあるカルロス・セラ氏は、農村部のコミュニティで環境教育の方法論を試す機会を得ました。遠隔地の子どもたちに環境教育をしたり、学校の先生たちに同行して環境活動を行ったりしてきました。

モザンビーク教育センターにて
LDIWモザンビークリーダー、カルロス・セラ氏

コスタリカの“イーコインズ”

エコで革新的な「イーコインズ(ecoins)」のストーリーは、北米と南米の架け橋となる国の一つ、コスタリカから始まりました。私たちLet's Do It Worldのグローバル・ファミリーと同様、持続可能なソリューションに焦点を当て、何がうまく機能し、未来に大きなインパクトを与えることができるかを模索しています。

Let's Do It コスタリカのリーダーであるカルラ・チャヴェス氏は、ecoinsを経済の重要な一部であると考えています。ecoinsは、リサイクルをした人に報酬を与えるロイヤリティ・プログラムを提供する会社です。コスタリカ、グアテマラ、ニカラグア、ペルー、エルサルバドル、アルゼンチンで活動しているecoinsのユーザーはリサイクル業者として登録され、リサイクル可能な物品を配送する場所が割当られます。リサイクル品は、洗浄・乾燥・分別されたものでなければ受け付けてもらえず、リサイクル業者にはecoinsという形で報酬が支払われます。このecoinsは、イーコインズ・プラットフォームを通じて購入したさまざまな割引商品に使用することができます。

アドボカシー活動

国連ストックホルム+50
6月2日〜3日

ストックホルム+50は、国連総会が招集したハイレベルな国際会議です。2022年6月2日から3日にかけて、スウェーデンのストックホルムで開催されました。1972年に開催された「国連人間環境会議」から50年を記念したもので、先の会議は、グローバルリーダーたちが初めて世界の環境問題に真剣に取り組むものでした。当時から、状況は手に負えなくなってきていると認識されており、114カ国の首脳が数々の重要な環境決議に署名、その1972年の会議の結果、国連環境計画が誕生しました。

6月の会議報告によると、過去50年間で、我々はかろうじて公約の10分の1を達成しただけです。環境保護に向けた資源の配分や、合意されたことを実現するための組織間の協力体制が不十分なのです。

Let's Do It Worldは、イベント「Youth Perspectives from Paris to Stockholm and Sharm el-Sheikh」（パリからストックホルムとシャルム・エル・シェイクへの若者の見解）で発表されました。このイベントは、COP27に向けた若者のロードマップを提供し、パリ協定の目標である1.5度に焦点を当てた明確な作業計画と関連活動を持つことで、ストックホルム+50がCOP27にどのように貢献できるかを議論したものです。このイベントは、Let's Do It エジプトのリーダーであり、Youth Love Egypt 財団の創設者であるアーメド・モハメド・ファシー氏によって企画されました。

世界環境デー

2022年世界環境デーは、6月15日にベルリンのヨーロピアンハウスで開始され、ロベルタ・メツォラ、ウルズラ・フォン・デア・ライエン、フランツィスカ・ギファイ各氏による挨拶と、ティアーガルデン公園での大掃除が行われました。ベルリン・ヨーロピアン・ハウスでは、Let's Do It World 本部とLet's Do It ドイツが、クリーンで健康的で、そしてごみのない地球を目指して、世界中の人々に第5回WORLD CLEANUP DAYへの参加を呼びかけました。

欧州議会のロベルタ・メッツォラ議長、欧州委員会のウルスラ・フォン・デア・ライエン委員長、ベルリンのフランツィスカ・ギフィー統治市長からのビデオメッセージが上映されました。この3人の政治家は、いずれもWCDのサポーターです。また、50人の若者も招待され、ポイ捨てや環境保護に関する対話に参加しました。

Let's Do It World からは、グローバルネットワーク代表のヘイディ・ソルバと、コソボ担当のリーダー、ルアン・ハサナ氏と彼のチームがイベントとクリーンアップ活動に参加しました。来年はブリュッセルで、ヨーロッパ地域全体を対象に、このようなローンチイベントを開催しようという話も出ています！ありがとうございました、Let's Do It ドイツ。

ケニア代表団LDIW本部訪問
5月16日〜20日

Let's Do It Worldは、5月16日から20日まで、ケニアからの代表団をエストニアで受け入れました。ナイロビ知事のアン・カナヌ閣下が団長を務め、ラリー・ワンブア県環境大臣、ナイロビ県政府の高官、国家環境管理局、Let's Do It ケニアのクリスティネ・サヨ氏とオスカー・ワンジャラ氏らが同行しました。この交流訪問は、Let's Do It ケニアとLet's Do It 本部の企画によるものです。

代表団は、政策立案担当官や環境関係者と面会し、多くの環境イニシアチブも訪ねました。チームはまた、元エストニア大統領のケルスティ・カルユライド氏にも会いました。

カナヌ知事は、ナイロビ市郡のチームは協力し学ぶために、そして可能なら環境教育やプロジェクト実施に向け、エストニアが持つe-Estoniaなどの先進技術を導入するためにここに訪問しましたと述べました。エストニア人は起業家精神にあふれ、革新的であり、政府もテクノロジーや中小企業を支援しています。

世界都市フォーラム
6月26日〜30日

2022年6月26日から30日まで、Let's Do It Worldは第11回世界都市フォーラム(WUF11)に参加しました。このイベントは、主要なハイレベルの政策立案者たち、地方自治体のリーダー、NGO、ステークホルダーたちの間で交流し、グローバルな都市化の課題と解決策を議論する世界有数の場として認識されています。

私たちは、Let's Do It Worldを代表して、世界都市フォーラムのプログラム内の2つのセッションに参加し、多くのサステナビリティ関連のセッションにも出席するという栄誉を得ました。最初のセッションでは、UNハビタットとLDIWが共同で市民参加の重要性について議論しました。また社会を変革し、セクターを超えた協力を促進するための強力なプラットフォームとして、WORLD CLEANUP DAYを紹介しました。私たちは社会の変革を最大レベルで推進するために、人口の5%がステークホルダーとともに集団行動を行うことがいかに重要であるかを強調しました。

次のセッションでは、COP27を主催するエジプト政府を中心としたパネルディスカッションに参加しました。議論の主な成果は、協働の強化、ステークホルダー間の信頼の向上、よりシンプルな解決策、意思決定プロセスへの市民の関与の拡大が急務であるという点の合意でした。しかし、あらゆるレベルにおいて、投資の優先順位付けや、避難民の参加などの課題が残っています。

COP27
11月6日〜20日

2022年11月6日から20日にかけて、エジプトのシャルム・エル・シェイクで開催された国連気候変動会議COP27は、気候災害で大きな打撃を受けた国々に「損失と損害」の資金を提供するという画期的な合意で閉幕しました。

Let's Do It Worldは会議に参加し、WORLD CLEANUP DAYに関するいくつかの会議やパネルを主導し、大きな市民運動は社会の激変を実現するための劇的なツールになるという重要なメッセージを発しました。COP27はまた、Let's Do It Worldの発展にとって重要な節目となりました。国連ハビタットのマイムナ・モハド・シャリフ最高責任者とエストニア共和国のマディス・カラス環境大臣との会談では、社会のシフトを加速させることに焦点が当てられました。国連からは、WORLD CLEANUP DAYを国連の公式カレンダーに組み込むことで、より大きなインパクトを与えられるのではないかと関心を持っていただきました。エストニア政府の支援により、国連では、2023年9月の次回国連総会で、WORLD CLEANUP DAYを国連カレンダーの公式日に含めることについて投票が行なわれる予定です。

World Cleanup Day,アルゼンチン

パートナーシップ

戦略的パートナー

エストニア共和国政府

REPUBLIC OF ESTONIA GOVERNMENT

エストニア共和国政府は、9月にニューヨークで開催される国連総会で、WORLD CLEANUP DAYを国連の公式日の制定するよう申請しています。設立当初から、Let's Do It World 本部とその運動全体を強力に支援するパートナーとして活動しています。

国連ハビタット(国際連合人間居住計画)

Let's Do It Worldは、2020年にWaste Wise Cities UN-Habitat Advisory Board（ウェイストワイズシティ国連ハビタット諮問委員会）に選出され、グローバルキャンペーンとコミュニティ参加活動の分野で専門知識を提供しました。この委員会メンバーの地位は、2021年と2022年に延長されました。

国連ハビタットとLet's Do It Worldは、2021年に覚書を締結し、パートナーシップを締結しました。共に、包括的で安全かつ回復力のあるコミュニティと都市を構築するために活動しています。この協力関係には、持続可能な廃棄物管理に関する活動、ごみに対する前向きな認識の促進、ごみから資源への考え方の転換、「Waste Wise Cities」を支持する地方、国、地域、国際イベントへの参加が含まれます。もちろんWORLD CLEANUP DAYも。

UN HABITAT FOR A BETTER URBAN FUTURE

国連SDGs

国連SDGsアクションキャンペーンは1,700を超える組織と協力して、様々な媒体を通して広報宣伝し、SDGsに関する行動を起こす人々を全世界から集めています。Let's Do It Worldは、「国連Act4SDGs」キャンペーンの招集パートナーを務めました。9月16日から25日にかけて行われた「#Act4SDGs」のグローバルウィークでは、190カ国以上から1億4500万以上の活動が動員され、その中にはLet's Do It WorldのWORLD CLEANUP DAYも含まれています。これらの活動は、SDGsを加速させ、人と地球の両方に変革をもたらす取り組みにプラスのインパクトを与えました。国連SDGsアクションキャンペーンとLet's Do It Worldは定期的に戦略会議を開き、協力体制が最大限活かされるさらなる分野を確定しようとしています。

アースデイ

２つの世界最大のグローバル環境団体である「Let's Do It World」と「Earth Day」は、ごみのない世界を目指して団結しています。Earth Dayの使命は、世界中の環境保護活動を多様化し、教育し、活性化することです。1970年の最初のEarth Dayから発展した「EARTHDAY.ORG」は、環境民主主義を構築するために約192カ国で15万人以上のパートナーと協力し、世界最大級の環境運動へのリクルーターとなっています。現在では、毎年10億人以上がEarth Day活動に参加しており、世界最大の市民行事となっています。もっとも重要なボランティア活動である「The Great Global Cleanup」は、数百万人のボランティアを動員し、世界中でクリーンな地域づくりを行っています。

UNEP

Let's Do It Worldは、
国連環境計画および国連環境総会の認定メンバーです。

ACNOA

アフリカの国内オリンピック委員会は、アフリカ大陸におけるLet's Do It Worldの最大のパートナーです。今年、アフリカ国内オリンピック委員会連合（ACNOA）は、2022年9月17日のWORLD CLEANUP DAYを祝し、参加への戦略を打ち出しました。その活動は、ゴミの回収や側溝のクリーンアップから、街やビーチのクリーンアップまで多岐にわたりました。アフリカ全域でこのイベントを成功させるために、各国オリンピック委員会が政府や市民社会のパートナーと力を合わせて、これらの独創的な活動を実施しました。ANOCAの価値観は一貫しており、スポーツを環境に優しい活動や持続可能な開発の中心に据え、アフリカの若者にクリーンなスポーツ環境の重要性の意識を高めようとしています。

World Cleanup Day ガーナ

パートナーの皆様、ありがとうございます！

ご支援、ご後援頂いている全てのパートナーの皆様に心より感謝いたします

グローバルパートナー

後援パートナー

動員パートナー

重要業績評価指標

重要業績評価指標	概要	方法	2023年の目標
WORLD CLEANUP DAY 参加者数	WORLD CLEANUP DAYに何人がごみ拾いに来たか	WCDのコールセンターと国別報告及びメディアモニタリング	参加各国の人口5%
人口参加率5%超のWCD参加国数	LDIWのネットワークで国民の5%以上が関与した国はいくつか	LDIW各国リーダーのWCD報告書	30カ国
WORLD CLEANUP DAY 参加国数	WORLD CLEANUP DAYに何カ国が参加したか	LDIWネットワークの国、LDIWパートナーによって動員された国、WCDウェブページでの報告、メディアモニタリング	190カ国
WORLD CLEANUP DAYで回収されたごみの量	WORLD CLEANUP DAYで何トンごみが収集されたか	LDIW各国リーダーのWCD報告書	100万トン
公共機関がWORLD CLEANUP DAYに関与した国の割合	公共機関、政府関係者が国、または地域レベルで資金調達、清掃、コミュニケーション面に協力、参加した国の割合	ネットワーク調査	行政80% 大統領・首相20% 大臣60%
ソーシャルメディアのフォロワー数	ローカルネットワークチャンネルとWCDグローバルチャンネルの両方の合計フォロワー数	ソーシャルメディアとデータ分析	Facebook: 200,000 Instagram: 70,000 Twitter: 3,000 TikTok: 10,000
英文デジタルメディアへのリーチ（年間）	WCDのソーシャルメディアとLDIWのネットワーク国でのリーチ数の合計	ソーシャルメディアのデータ分析	5,000億回
ネットワーク内リーダーの幸福度（10段階評価）	リーダーが自分のしている仕事がどれだけインパクトがあり、どれだけ強くネットワークに属していると感じているか、またそれ相応の評価を得ていると感じているか、など	ネットワーク調査	8.0

重要業績評価指標	2019年の結果	2020年の結果	2021年の結果	2022年の結果
WORLD CLEANUP DAY 参加者数	2,120万人	1,100万人	850万人	1,500万人
人口参加率5%超のWCD 参加国数	2カ国	0カ国	4カ国	4カ国
WORLD CLEANUP DAY 参加国数	180カ国	166カ国	191カ国	190カ国
WORLD CLEANUP DAYで 回収されたごみの量	100,000トン	43,000トン	33,150トン	60,000トン
公共機関が WORLD CLEANUP DAYに関与した 国の割合	自治体 73% 議員 54% 環境大臣 32% その他の大臣 25%	自治体 72% 議員 56% 大統領 6% 市長4% 首相 6% 環境大臣 36% その他の大臣 21%"	自治体 76% 議員 57% 大統領 3% 市長4% 首相 8% 環境大臣 28% その他の大臣 22%	自治体 80% 議員 69% 大統領 2% 首相 8% 環境大臣 38% その他の大臣 27%
ソーシャルメディアの フォロワー数	Facebookグローバルページ: 136,749 Instagram:6万 Facebook総計:50万	Facebookグローバルページ: 149,810 Instagram:20万 Facebook総計:110万	Facebookグローバルページ: 153,300 Instagram:5.1万 Facebook総計:150万	Facebookグローバルページ: 152,000 Instagram:5万1,400 Youtube：1万1千 Facebook総計:110万
英文デジタルメディア へのリーチ（年間）	1,870億	1,560億	1,560億	5,850億
ネットワーク内リーダーの幸福度 （10段階評価）	8.4 (102カ国)	8.2 (98カ国)	8.2 (93カ国)	7.85 (76カ国)

WORLD CLEANUP DAY ベトナム

Thank you!

Let's do it!

Written & Compiled by Anneli Ohvril and Heidi Solba | **Design and editing** by Bajoom Ltd
この日本語翻訳版は、NPO法人WORLD CLEANUP DAY JAPANが作成した参考訳です。なお、英文レポート中の財務報告は日本語翻訳版に含めていません。